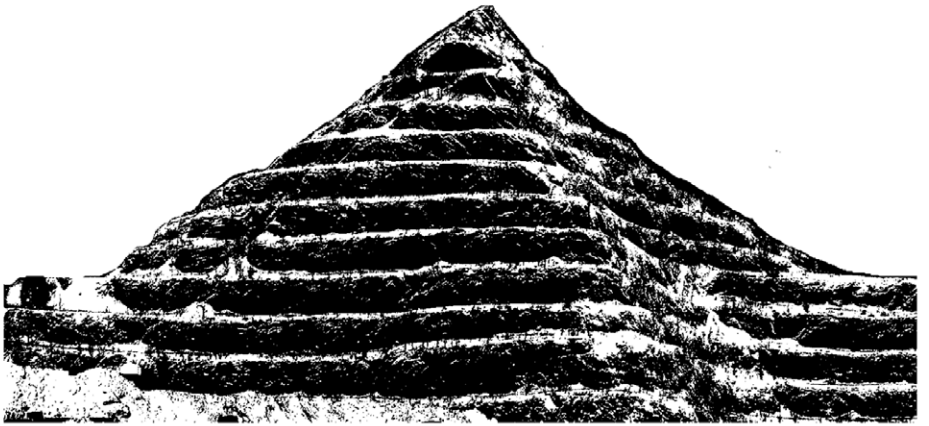
星からのメッセージ

第二集



日本のピラミッドになりたかった五天山(札幌市)

シロキ カヨコ
(スニキ ミヨ)
Shiroki Kayoko

ソラ星出版株式会社

星からのメッセージ

第二集

シロキ　カヨコ
（スニキ　ミヨ）
Shiroki Kayoko

ソラ星出版株式会社

出版にあたって

この電子版「星からのメッセージ　第二集」は、２００１年１月に発行された書籍版「星からのメッセージ第二集」を、内容を一部変更して電子化したものです。

初期の頃のチャネリング内容で、当時のチャネリングの言葉をほぼそのままで掲載しています。現在のチャネリングの内容とは異なる箇所もありますが、メッセージの大きな流れは変わっていません。現在のチャネリングで大きく違う部分を一部（注：　　）として記載しています。最新の「地球の謎とき」物語を理解する上でも重要なキーワードが、この本にもちりばめられています。

最新のチャネリング内容につきましては、弊社発行の本やホームページをご覧下さい。

目次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
1) 星からのメッセージ　・・・・・・・・・・・・・　4
2) イシカミからのメッセージ　・・・・・・・・・　56
3) 古代日本人からのメッセージ　・・・・・・・・　80
4) イエスたちからのメッセージ　・・・・・・・・　107
5) ミステリーサークル一覧　・・・・・・・・・・　143

お知らせ
月は 98 年秋まで、M のグループの支配下にありましたが、それ以後、月読みの命（ツキヨミノミコト）が平和に治めています。
地球の天候を司っていると伝えられています」

はじめに

私は平凡に生きてきた主婦ですが、ある体験をしてから口が動き言葉となって、私の知らないことを知らされ続けています。

それは何処から送られてくるかと申しますと、星たちの集合意識＝霊（以後霊とす）や、かつて人間であった霊からです。これらのメッセージはこの地球や人類の平和を望むために送られて来ていると強く感じましたので、一人でも多くの方にお知らせしようと思い本にしました。

はじめの頃の情報は「星からのメッセージ」として本にしましたが、それからも情報は与え続けられ、より筋道が通った様に思います。

私は伝えられた事を皆様にお知らせするメッセンジャーですので、判断することは出来るだけさけて伝えられることをそのまま文にしました。伝えられることは霊たちの記憶が定かでないのや、わかりにくい時には私の想念も入っていると思われますので、そのこともお伝えしておきます。

また、私にも解らないことはたくさんありますが、伝える言葉が無いので仕方がないそうですので、謎解きをお楽しみください。

お伝えするのに躊躇するような内容もありますが、少しでも謎が解けるように勇気を持って伝えてくれたことに敬意を持ってお知らせします。

いろいろな分野においてご研究されている方は、まず年代があわないと思われるでしょう。特に日本の場合は長い間、文字が禁じられていたと伝えられました。それは蛇文字の存在で知らされ、書き伝えられたことは、時の権力者の都合の良いように書かれたとも伝えられました。また、同じ名前を後年付けたのや、霊の生まれ変わり＝霊が降りてあたかも本人のように言っているのもあるようです。

毎日の生活で大きな障害はご自分の霊がお知らせしていると何度も言われます。不思議なことを探している人を星たちは昼も夜も探しているそうです。そして「偶然の一致」「直感」「夢」などでお知らせしてくれ、それを信じるとますますそれがはっきりしてきます。小さな不快なことは起こりますが、星たちはそのことが不快かどうか分からないので許してほしいと言っています。

これまで強力な力で人間を支配することができたMの星のグループの霊は、今ではいなくなったそうですが、まだ想念が強く残っていると言われます。それでも支配していた星の霊がいなくなり、ミステリーサークルで 1999 年に 300 メートルにも及ぶお祝いのパーティーの図（106）

や、大きな花束（11）を星たちが描いて知らせてくれました。そして2000年の図は簡単な図で、最後は地球と射手座が手をつないで終わっています（116）。

現在もいろいろ思いもよらないことを次々と知らせてくれています。それをホームページでお知らせしていますので、そちらのほうもよろしくお願いいたします。

「地球の謎とき」ホームページ

http://sora.ishikami.jp

注）本文中、（11）や（106）など括弧（）で括ってある番号は、ミステリーサークル図の参照番号を表しています。なお、ミステリーサークル図（1）～（50）は、ソラ星出版の本『星からのメッセージ』や、「地球の謎とき」ホームページに記載されていますので、そちらを参照してください。

この本に記されている内容は、あくまでも著者が霊（目に見えない存在）から伝えられた情報であり、現時点では科学的に証明された内容ではありません。また、本文中『本当のことです』『信じてください』などという言い回しもありますが、読者の方に対して本の内容を押し付ける意図はございませんので、すべての判断は読者の方のご想像におまかせいたします。なお、宗教やその類に関する団体とは一切関係ありません。

本文中『あなたは…』などとある部分は、著者に対しての呼び掛けです。

1) 星からのメッセージ

星物語でこれまで知らされたあらすじ

「始めは何もなく真っ暗闇でした。黒い中に“愛”が生まれました。“誰かを愛したい”と。それで光を作りました。光は美しいモノでした。その光は違う光があると良いなと思いました。それで光は真剣に考え、どうすればもっとたくさんの光ができるか考えました。

ガスを燃やすことで光の元、星の誕生を思いついたのです。思うことが現実になっていったのです。そしてたくさんの星が生まれました。それらを星の宮はきれいに並べていました（7)。そのうち並べられるのを嫌がる星が出てきたのです。

そして星たちは自分たちの意思を形にしようと思いました。まず、ルシファーと火星にどんどん知識を送りこみました。そして、どちらも行き着くところに行き着き、ルシファーは星が爆発しました。知られているような悪い星ではなく、少し自分勝手な思いの星でした。火星も科学がどんどん発達し、ついに霊だけの星になったのは以前お知らせした通りです。

さて地球は星たちに可愛がられ、あらゆる生き物や動物を送りこみましたが、霊がなかったため星たちのことを分

かってくれませんでした。そして恐竜たちは殺し合いばかりしていたため、稲光で地球をきれいにしました。そして地球が熱くなりすぎたので、冷やしたら氷河期になってしまいました。

一方星たちにはいろいろな意識が現れ、地球を自分たちの思い通りにしようと言うMのグループと、遠くからそっと見守ろうと言う星たちに別れ、戦争になりました。そして、その星の残骸が天の川です。

星の戦争では地球を支配するMのグループが勝ち、1998年まで恐怖の想念をエネルギーにしていました。地球を守ってくれていたのが主に太陽系の惑星で白色星団でした。その他オリオン・射手座なども地球を応援してくれています。白色星団の団長は冥王星の女王で、国王はヨミの国を司っていました。死後必ずヨミの国を通りぬけ霊界に行きます。ヨミの国には火の柱が立っていて、死ぬと消えるのでその番をしています。

人間はベガ星からアダムとイブとして、ヤハウェーとトヨウケが降りてきました。ヤハウェーはあちこちに子供を作ってユダヤに落ち着くが、一番大切な人は東の果てにいると言っていました。(注:岩木山の子供の巨人ヤハウェーと、ご在所岳の子供のトヨウケがアダムとイブの元のようです。人間のアダムとイブはストーンサークルで創られた

ので、たくさんいるようです）

ミステリーサークルはこの星物語を伝えるために描かれ、始めはお絵描きロボットで簡単なモノを描いていましたが、続いて白色星団がより複雑な図を描きました。1998 年にMがいなくなり、白色星団はお祝いのパーティー（106）と花束（11）を描き、それぞれの星に帰って行きました。

2000 年には描かないと言っていたのですが、絵を描く喜びを覚えた 6 つの星がお絵描き担当で、6 つの花びら（113）などを描いています。小さなオニ（108）は小さな三角で現していますが、必ず囲まれ心配はありません。星の宮に抱かれた地球や離れて独立した星（114）を現したりしています。今年のミステリーサークルの最後の図は、射手座（イシカミ）と地球が手をつないで星たちが見守っている図（116）で終わっています。

「幼い小さな物語をします。私は地球神です。大昔あらゆるものが溶けていたとき、その一つの固まりが地球でした。ものすごく熱いので水というものを作ってもらいました。それで地球を冷やしたのです。そしてまず小さなプランクトンを発生せさてもらいました。それから段々進化していきました。宇宙人が遺伝子操作をしました。

宇宙の始まりは神様が思うことで作り出されたのです。

思った通りのものができるのは次元が 1000 次元（?）でないとできません。進化だけでは神は待ち切れなかったのです。あちこちに地球のようなものを作りましたが、みな進化して形がなくなりました。ですが地球はそのまま残されているのです。神の意志なのです。

でもあまりにも地球を痛めつけたので、もう一度石器時代に戻そうと地球神は思っていたのですが、人間がこのままにしてと思っていたので神は地球神に命令されたのです。このままの地球であと 2000 年過ごすと。でも皆の意識が変わらないと本当の石器時代に戻すつもりです」

2000 年 1 月 20 日 2 時

星原の家で宇宙人に襲われている夢を見て目を覚ます

「起こしても起きてもらえないので夢を見てもらいました。書いてください。

始めにアンモナイトを作りました。アンモナイトは宇宙の形に作りました。変化がないのでアンモナイトの殻を取り去り伸ばしてみました。それがヘビなのです。そして恐竜を作りましたが、殺し合いばかりしているので嫌になり人間を作ったのです。魚はあらゆるものの大元のかたちです。四足動物のみ進化しました。星から送られたものは、お花 • 魚 • 鳥 • 昆虫 • あらゆる菌類です。そしてにぎやか

な地球の住民ができたのです。

人類は以前お話しましたように、担当のベガの者がアダムとイブとしてヤハウエーとトヨウケを作ったのです。そしてりんごを食べていたのです。ベガの者は何組ものアダムとイブを作ったのです。その子孫が地球人です。ヘビにしたのはMでした。アダムとイブがりんごとヘビのことを知ったら自分たちが苦労をしなければならないと思ったのです（？）」

2000年2月8日23時30分

昼間、氷河期はなぜ起こったか聞いていた

「オシラム（オニの大将）が支配し、恐竜の殺し合いばかりの地球になってしまったので、地球を作り替えようと稲光でお掃除をしたのです。稲光で地球が熱くなりすぎたからです。水で冷やしただけのことなのです。それから優しい動物と人間を創りましたが、再びオシラムが支配し始めるのです。これからの地球は本当の理想の地球にしたいと思います。いたわりと愛に満ちた地球にしたいと思います。　　変わらぬ愛を送る星の宮より」

1999 年 12 月 12 日

Xファイルを見ていて口が動く

「星の者です。これらのことはいずれお知らせしなければと思っていましたが、あなた（著者）の心の準備ができてからと思っていました。こうして問いかけてくれたのでお知らせいたします。さっきも言いかけましたが、お空の者が何の目的であのような恐ろしいことをしたかというと、地球人を支配し自分たちの思う通りの地球にしたかったのです。地球人を支配できるように、Mは地球人の脳の中に小さな 2㎜位のものを入れて実験をしていたのです。それは痛みもなく寝ている間に入れられました。そして田舎に行くように誘い、Mの計画を実行しようとしたのです。TV のことは本当です。知らせておけば皆一斉に言うことを聞くだろうと思っていました。

人間に乗り移った宇宙人の霊はまだ生き残っているのです。人間から出ると直ちに消えますので、他の人に乗り移るということはありません。それで急には平和にならないのです。星物語を知るとそのことがわかります。

これまでの物語を信じてもらうために、どうしても UFO の説明がいりますか？　星の言葉でしか説明できないのでわかりにくいと思いますがお知らせします。UFO はMたちが面白半分に飛行機を試作しました。どのように

して作ったかというと、まず人の想像しているものを知り（これは簡単なこと）Mの創造を固めて（？）物体を作り、その中に作ったロボットを乗せました。

UFO を作っていたのはMで、私たちは仲間でないので詳しくはわからないのです。その 1 つはシベリア地方のもので作りました。シベリア地方には人が少ないので、どんなものでも大地から取り出せるのです。地球にある成分を白い光で焼いて形を作りました。お空の上で作るのです。空の者がはるか離れた所からエネルギーを送って作るのです。あなたの鼻の一点を刺激できるように、遠く離れていても細かな作業ができるのです。UFO ははるか上空で作られるので見えないのです。ET は全てロボットなのです。3.05 次元なので一部の人にしか見られないのです」

2000 年 1 月 20 日

ダイレクトメールのマヤンのカレンダーを見ているとロが動く

「思い出したくもない恐ろしい絵なのです。マヤの民族に教えたのはあのMなのです。これらの絵の中に恐ろしい意味が隠されています。今はいなくなりましたが、Mとチャネリングをしていた神官が描きました。Mは恐怖の想念をエネルギーにしていました。

これらの絵が何を意味するか伝えます。星たちはこれらのことが行われるのを悲しい思いで見ていました。Mが約束していたのです。2013 年までにこれらのことを止めると。そしてそれからはこの世を明るい世の中にするものと交代すると。これがマヤンカレンダーの言葉なのです。これらの恐ろしい絵の言葉を力強い言葉に解釈し、あらゆる国に広めようとしたのがMのワナだったのです。マヤの遺跡を見てください。何か楽しい気分にさせましたか？　これが学びなのです。



これは人の命をなぐさみものにする人間の王を表すカード。頭の飾りをつけています。このカードを引くと命は助かりました。



これはMを表すカードで、命は助かりました。



これは神を侮辱する絵。左の？は宇宙の成り立ちがわからないという意味。ワラビの形がなぜあのようになっているかわかりませんか？そうです『？』です。
右の⊙と縦の点線、これは今はいないMが威張っていること。オニが喜び命は助かる。



王様のいわれを大声でお知らせしなさい。ふれてまわるという意味です。



星の宮を捕まえたという意味で、このカードを引くと男は女を与えられたのです。



星と神が同じだという意味で命は助かる。



オニが雄叫びを上げている。オニがこの世を支配しているということ。上がM、下が星たち。命は助かる。



星の物語にあった、かわいそうなオリオンと織り姫の物語。命は助かる。



このカードを引く人は、むごい死に方をしました。



このカードを引く人は、天の代わりに川の心を試されたのです。川に流され助かるか死ぬか試された。



同じく、筏（いかだ）に乗せられ試された。



このカードはオニ（支配者）の笑いの顔で、命が助けられた。



これがマヤ人の顔。このカードを引いても助けられた。



これは海の満ち潮や引き潮を表し、若者は海辺に埋められ満ち潮で死にました。



これはオオカミの顔で、オオカミに食べられました。



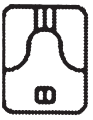
これは痛ましいこと、イネリアのイエスを磔（はりつけ）にする計画を立てたのもMでした。



きれいな着物を着せたこのように髪の長い女を、生け贄にすること。



オニが今宇宙を支配している。命は助かる。



子供を生け贄にする」

以上で言葉にするのも嫌なことばかり知らされましたが、口が大きく開き一生懸命教えてくれました。言葉がなかなか見つからなく口がだるくなるくらいでした。

「マヤンのカレンダーで、地球が滅びるというのはMの部下の女王が死んで交代するということです。Mに支配されていましたから」

頭が女性で身体がヘビの絵を見て、気持ち悪くて眠れず

「人間と動物のあいのこの絵を描かせたのはMなのです。動物と人間を合体させることを試みていたのがMなのです。（著者：エジプトでは実際したが生き残れなかったと以前知らされた）人間と動物は違うので、そのことをされるのを苦々しく見ていました。この言葉は射手座の星の者が伝えました。射手座の魂の者はMにいじめられました。このことを書いてほしいのです」

「水晶のどくろを作るのは簡単なことなのです。あなた

も見たでしょう。Mからエネルギーを与えられるとエメラルドが倍近く大きくなったのを。そして水晶の棒を粘土細工のように太くしたり細くしたりすることができるのを。あの水晶のどくろも、Mのエネルギーがたくさん与えられて柔らかくなった水晶をどくろの形にしたのです。

そしてこれまでお知らせしたように恐怖の政がなされていたのです。どくろの前で自分たちが魔法の力を持っているので、自分たちの言う通りにしろと生け贄を差し出させたのです。そしてその恐怖の思いをMに支配された者が楽しんだのです。

殺された仲間がオニの話をしてくれました。Mが憎んだ星の者でした。止まらないのです。子供を生け贄にされた悲しみがお伝えできて楽になりました。毎年一人ずつ生け贄にされ 500 年続きました。500 人の生け贄を見ているのです。それぞれに降りていたのです。恐ろしいMのオニが神官と呼ばれる殺人者に。これは何を意味するかというと、何を神とするかで恐ろしいことになることを知らせているのです。

神というのは愛の意識体なのです。愛の思いを絶えさせないでください。

いついかなる時も、それだけをお願いします。

愛のエネルギー体の神より」

2000年1月15日23時

「波の話をします。波は地球の中のマグマが沸騰しているのでできるのです。お鍋に水を沸かすとグツグツするでしょう。お水の温度が低くてもマグマの振動が波をゆらせるのです。また、海の水がなぜ宇宙に飛んで行かないかというと、引力で引っ張っているのではないのです。空気が押さえているからなのです。空気は何も見えなく何もないようですが、あらゆる物質で高密度なものなのです。地球の引力は物質は引っ張りますが……。

地球の水は以前お話ししたように水星から来ました。水星の霊がお友達の地球にプレゼントしたのです。水星の霊が思う力で作りました（？）。お空から見ると青いダイヤモンドです。それではるか遠くからMの仲間の意識体が地球にやってきて、あなたが一昨年恐怖の思いをしたのです。

稲光とイカヅチ（雷）は同じではありません。以前イカヅチがオシラムと言ったのは、雷神の姿がオシラムと同じだったからです」

2000 年 3 月 4 日 3 時

足の一点が痒くて目が覚める。とてもはっきりと口が動く

星の宮とも名のない星とも違う新しい星（?）からであった。

「これからのことをお知らせする星のひとりです。これから話すことを書いてほしいのです。流れ星はなぜ起きるかということです。流れ星になるにはこれまでもお知らせしましたが、オシラムの入った星が消えていくのです。それを誰が決めるかというと私なのです。星にもたくさんの思いの星があります」

「物語をいかにわかりやすく教えるかとても難しいです。流れ星は今から言うことで流れるのです。星の霊たちに『あなた方の思いはこれでお終いとします』と伝えると、その星の霊たちは『これまでなのだ』と全ての霊が惜しむことなく流れ星に集まります。そして星の霊と共に『これから生きることはない』と宣言します。すると星はこれ以上存在しようと思わないので消えていくのです。そしてそのことで高温になりおし消えるのです（?）。高温になると 5000 億度以上になり消えるのです。隕石として地球に落ちるのは、主に大きくなりすぎた星なのです。

星はこれまでの常識と違い、岩でありながら若い者が小さく古くなると大きくなるのです。あなたが思っているようなごつごつした岩ではありません。丸い形をしています。そして可愛い子供の星は、これまで降りて消えたロボット（と言っていた）の霊が住んでいました。そしてそれより大きいのが、これからお知らせする物語をお知らせするのです。もっと大きくなると、いわゆる名のある星で考えが孤立しています。考えがハッキリと独立するのです。

私たちはグループで力を合わせています。その思いは次のことを思っています。私たちは地球をとても愛していますから、これまでのようなことは決してありません。それでは今日はお終いにします」

2000年2月21日2時

1点が痒くなり目が覚める

「光のことを伝えますので起きてください。光の物語です。星の光はあなたがたが思っている速さではないのです。星の光は一瞬の間に届いています。宇宙はあなたがたの思っているような遠くではないのです。光が地球に届くのは一瞬の間に届きます。

空はミステリーサークルに描いてあるように、昼と夜があるのです（27）。そして太陽に照らされているときだ

け昼と感じていますが、宇宙は前にも言いましたようにいつもお昼なのです。そして星たちは仲良くお互いを照らしあっているのです。わかりますか？　なぜ地球にだけ夜があるのか？　夜を作ったのが我々星なのです。夜を作らないと星の姿が見えないからです。

どうして夜を作ったかというと簡単なのです。地球は自分で回っています。太陽は自分で回っていません。太陽の周りを地球が回っているのではないのです。太陽が地球の周りを回っているのです。地球が自分で回ることで夜になるのです。地球の周りは夜がありその上はいつも昼なのです（16)。そして太陽さんに来てもらい明るくしてもらっているのです。

ヨーロッパの冬の夜が長いのは星原より遠いからです。星原を基準にしてあるのです。初めて白い木（稲光）が降りたのも星原です。今日のお知らせはこれまでです」

2000 年 2 月 7 日寝る前

「白い木（稲光）が生まれたのには訳があります。星の宮です。その訳は、星になるときにものすごい高熱になります。そしてその熱を冷やすために宇宙に水を作りました。水を作ってくれたのはあの水星です。そしてお決まりの火は火星が作ってくれました。

稲光はなぜできたかというと、星が別れたとき地球はこのままではオシラムの星にされると思いました。それまでオシラムの力だけで地球は支配され恐竜の星だったのです。オシラムが地球にエネルギーを与えていたのです。それで宇宙神は分身として稲光を地球に降ろしたのです。その稲光で恐竜は死に絶えたのです。そして新しい生き物“人間”を作ったのです。

稲光は、宇宙の水と星ができるときの高熱がけんかをしてできました。また宇宙は、星たちから熱が出ているので暖かなのです。地球の周りを離れるともっと冷たいと思っているでしょうが、そうではないのです。各星から熱が出ているのです。太陽くらいの熱を出す星はたくさんあります。けれど生物がいるのは地球だけです。あちこちに生物がいたら、私たちがとても大変だからです。

かって火星に生物を作ってみましたが、あまりにも身勝手に進化して我々の思いとは違う形になりましたので、霊だけの星にしました。それで火星は「学びの星」になったのです。地球がこのようにならないように見せてくれたのです。

変わらぬ愛を送る星の宮でした」

2000年2月8日4時

突然目が覚めて

「さまざまな形のあるものがいるのは、何度も言いますが宇宙広しといえども地球だけです。今からでも遅くはありません。この学びを心にとめて楽しい乙女のような学びをしてください。白い木の者が宇宙神（星の宮）から教えられたこの物語は、まことの物語です。

何度も言いますが、星物語を信じる人は、なすべきことをなす行動をしていれば霊たちが助けてくれます。お知らせも楽しく学んでいけるはずです」

「昨夜の続きです。白い光の元は白い石なのです。白い石からエネルギーを取り出します。その技術や測定は、人間ではまだできません。あなたが持っている石と同じです。白い石の星からエネルギーを集め、白い光を作ります。そして凝縮させるのです。白い石の星は宇宙のあちこちにあります。私たちの想念（？）で集めて地球に送ります。

白い光は今でも現すことができますが、UFOはできません。これらのUFOはMの部下が作っていましたから。何度も言いますが、白色星団はUFOは作っていません。ミステリーサークルを作って星の物語を知らせ続けたのです。Mが世紀末の恐ろしさを植え付け、自分たちを信じる者のみUFOで助けるとチャネラーを通じて世に知らせて

いたのです。星の物語を信じる人は、あらゆる霊が守ります。

星の宮とその部下」

飛行機の羽を見ていて「人間もよく考えているでしょう」と言うと

「すべて星の者が教えたのです。すべてのことは、星の者がアドバイスをしてひらめかせたのです。そのことを忘れないでください。そのことを思ってくださると、ますます快適な生活が送れるようになるでしょう」

2000 年 4 月 12 日

夜中目が覚める

「書いてください。白い星についてお知らせします。白い岩の星は星から別れたモノです。白い星に霊はいません。白い星はあなたが持っている水晶と同じです。エネルギーを出すのです。白い星は今では岩だけになりました。それはなぜかというと、地球をそのままにしておくと星たちが決めたからです。今までのように星が支配するのではなく、星がお友達としてお知らせするだけとなったからです。

これからは、仲間がインターネットによって広まっていきます。あせらないで。星の魂を持つ人には必ずわかるようになります。

変わらぬ愛を送る星の宮でした」

2000 年 3 月 5 日 14 時 30 分

手が痒くお知らせと

「これから変わらぬ愛を送る星からお知らせします。

イソのことです。稲妻のエネルギーがマグマを沸騰させましたが、海の水がなぜあれほどたくさん集まったかということをお知らせします。地球が熱くなったので、水星の者は地球を冷やしてあげようと思いました。水星の者は冷たくするモノは何か真剣に考えたのです。そして解決したのです。

水星の者はこんなことを思いました。固まっても溶けても成分の変わらないモノ、そして気体になってもしばらくすると固まるモノにすることにしました。並のことではありませんでした。なぜなら地球の熱がものすごいので、とてつもなく冷たいモノでないと冷えなかったのです。あらゆるモノを考えましたが、皆熱で溶けてしまうのです。

その頃水星にこれからお話する水星人（霊体）がいたのです。水星人（人間と魚のあいの子＝人魚？）がいました。

その水星人は勇ましくも賢い者でした。その水星人がなぜお隣の地球にたくさんの水を作ることができたかというと……（眠くて寝る）

水星人の若者が作ったのです。水星人は星からお水が落ちるように全員でイメージしました。熱い星地球にお水が落ちていくイメージをしたのです。そして冷やすイメージをしたのです。これだけ落とせば地球が冷えるだろうと思ったら、次は水を固めるイメージをしたのです。それで水の所と固まった水（氷）の所があるのです。これが地球のお水の物語です」

2000年3月8日23時

なぜか O_2 が気になる

「面白い答えですよ」と口が動く。

「酸素は何でできたかというと、酸素はお水の成分ですね。そしてその半分と H_2 がくっついてお水になります。だからお水から0を取ればいいのです。お水から0を取ってくっつけると 0_2 になるのです。それを植物がしています。

人間の科学では、植物が CO_2 から酸素を出していると言われていますが、H_20 から酸素を作っているのです。植物にお水がいるように考えたのは酸素を作るためなので

す。CO_2 からも酸素は作りますが、量は少ないのです。葉っぱから CO_2 を吸収することはとても少ないのです。

植物が水を吸い込む力はすごいですね。大きな木は水の流れが聞こえるくらいでしょう。どうしてあの高い木のてっぺんまでお水が登っていくのかというと、お水がお空に帰りたいからです。お水にも意識があるのです。あの波動の氷の結晶がそれを示しています。お水の言葉を伝えます」

「私はお水です。水星の方が作ってくれました。地球のみんなは大切なお水をとても汚しています。一滴の水にも意識があることを忘れないでください。お水からのお知らせでした。お水からエネルギーを取り出すのももうすぐでしょう。私たちがお知らせしていますからお願いしてください」

2000 年 3 月 7 日 22 時

「お知らせします。アトランティスの可愛そうなお話です。星の者です。これまでお知らせしてきたアトランティスの話に少し付け加えます。（著者：現実に証拠が残っているか？の問いに）アトランティスは大西洋のあのウナギがさかのぼる（TV でしていた）場所にありました。あの海の底に沈んでいるのです。これまで伝えられたことはほ

ぼ正しいのです。

今からこの話をします。太陽はなぜあのような高温が出せるかということです。地球の科学者は核融合で高温になっていると言っていますが、そうではないのです。

太陽の外側にはとても高温の炎があります。これは何かというと、よもやと思うでしょうが、変わらぬ愛を送る星たちが炎を作り出しているのです。なぜあのような炎ができるかというと、星たちが力を合わせて炎を作っているのです。太陽の中は何も燃えていないのです。地球より冷たいのです。太陽は地球より大分大きいのですが、私たちから見るとミステリーサークル（78）に描いたように見えるのです。いつも地球が中心なのです。

これから必ずこのことがわかります。なぜならお知らせがあるからなのです。星から何で知らせることができるかというと、ミステリーサークルしかないでしょう。イカロスの羽はイーグル星からもらった物でしたが、太陽には行けませんでした。これからは太陽人と霊で話せます」

2000 年 3 月 10 日 1 時 20 分

痒くて目が覚める

「宇宙の果てのことをお知らせします。宇宙の果てには終わりがないのです。なぜなら今この地球を中心とした宇宙の果てには、違う次元の宇宙が広がっているからです。あのミステリーサークルの絵（10）のようになるのです。堂々巡りをしているからです。

今、地球はこれまでと少し違う宇宙にいます。それで太陽の黒点が多く見られるのです。次元が変わるとものすごく何かが変わると思っていますが、それほど変わらないものなのです。もっとも、この間は大分次元が変わりましたが。

太陽の黒点が何を現しているかというと、磁気嵐ではないのです。あの黒点は、私たち星が見てもらいたい“あること”なのです。それは次のことです。

黒点は、星の皆の想念の力を今一度結集して、太陽の炎を燃やしましょうという合図なのです。それで黒点の炎が盛んになるのです。太陽は勇ましい宇宙のものよりあの炎を出しているのです。だから太陽のものは普通の星と同じくらいなのです。場所を借りているだけなのです。太陽人は太陽の中に霊としています。またお知らせします。今日はこれまでにします」

（著者：次の日胸がちくちくする。私が疑いながらパソコンに打ち込んでいるので「本当のことです」と合図あり。痛みが直ちになくなる）

2000年5月10日昼

自然に口が大きく開いていく。「書いてください」

「人間でも動物でも、身体がなぜできるかというと、宇宙のガスの成分に集まってもらうのです。その号令を星たちがするのです。あのガスの成分ひとつひとつに意識があります。同じ成分どうしが集まります。そして星たちが考えた形になってもらいます。それが最初の形の基礎になります。（ガスの成分は原子？です）人間の身体はいろいろな成分からなっているので難しいのです。

その原子？遺伝子？にどんな形になるのか、我々が教えるのです。たくさんの原子に全部教えるのではなく、代表の遺伝子に教えるだけです。その遺伝子が細胞分裂の先頭に立って教えていくのです」

2000年3月9日朝

「梅の花は、なぜ寒いときに花を咲かせるかお知らせします。お花が寒さを覚えていて、梅の実に教えるのです。寒さを梅の実が覚えていて、暑い夏を耐えることができる

のです。柿も同じです。柿の花が夏の暑さを覚えていて、柿の実に教えて寒さを耐えるのです」

2000年7月20日3時

「お塩が身体に必要な訳はわかりますか？（著者：わかりません）

星から別れていったとき、地球にはいろんな動物がいました。そして、どの動物にも遺伝子というものがありました。その遺伝子からわかったことは、人と選ばれた動物には霊があるのに、普通の動物には霊がないのです。星達のことをわかってもらうために霊を作りました。

白い木（稲妻）になって地球に降りるとき、高い温度にするためにお塩が必要だったのです。それでお水にお塩（NaCl）を加えたのです。そして、なぜ海の水と人間の血液のお塩の成分が同じかというと、仲間の星が教えてくれました。

それは一人の人間を作るのに、とてもたくさんのエネルギーを必要とするからです。そして細胞分裂は、細胞たちがとても苦労して増えているのです。簡単に増えているようですが、人間のお産と同じくとても大変なのです。それでその細胞に少しのお塩を入れることで、細胞にエネルギーができて分裂しやすくなるのです」

2000 年 3 月 11 日朝

「卵子に精子が入ると、なぜ細胞分裂を始めるかをお知らせします。精子の運動や受精した卵子が動いて決められた所に着床するのも、星からお知らせしているからです。人間が遺伝子をよく見つけたと思います。でも遺伝子だけでは分裂することはできないのです。遺伝子にわかる言葉で話しかけ、細胞分裂を促すエネルギーを星から与えるのです。星のエネルギーは細胞が別れていくのに必ずいるのです。星が話しかけないと細胞分裂は決してしません。

なぜ星のエネルギーが細胞分裂させることができるかというと、いにしえより星の源からそのものが押し出されてきたからです」(著者:以前、物質の発生は星から泡のボールに包まれて送られてきたと知らされた)

2000 年 2 月 4 日夜

小さなクモやチョウチョのビジョンが見えた後

「押しもの物語です。押しものとは星たちが楽しく思いながら押し出しています。押し出すとは以前言いましたように、ガスの重ねをたくさんにして描いたものを押し出すのです」

2000年2月5日3時

口がはっきり動き目が覚める

「星の宮の部下の者です。押し出すということは、星の者が地球めがけて押すのです。（眠くて寝る）それが物の発生なのです。今ではあまりなされていません」

2000年3月9日

「私は眠りの国のウネレノミツと申します。そうですミツと呼んでください。死ぬときの経過をお知らせいたします。とても悩んでいるのですね。死ぬ前に苦しむのではないかと。ウネレノミツの言うとおりにすれば、とても楽に死ねます。それには、どうしてもやらねばならないことがありますが、そんなに大変なことではありません。

まず霊の言葉を聞いてください。あなたは「ミツ」と呼んでください。それぞれの人は、ついている霊を呼んでください。霊の名前がわからない人は、自分の名前を呼んでその人の霊に降りてもらってください。それを熱心にしてください。それからなるべくゆったりと横になり、霊に「私から離れてください」と頼むのです。それだけで霊は離れて苦痛はなくなります。それだけなのです。

それには霊がいることを信じなければなりません。霊がいることを信じない人は、いつまでも寝たきりになるので

す。私は今天国にいるのです。天国とは「星」なのです。「私もう、ミツさん、あなたの所へ行きたいわ」と本気で何回も言ってください。必ず迎えに参ります。大丈夫です。これからは何も嫌なことは起こりません」

2000年2月4日朝

亀がネズミ（?）のトンネルを行く夢を見る

「寝てから他の宇宙に行くのに、あのようなトンネルを通るのです。これらのことを知らせるにはまだ早いのです。子供の物語なのです」

「日本のS医学はいかがですか？」と聞くと、

「ちいちいぱっぱ……。すずめのがっこの先生は……」と聞こえてくる。

1999年10月27日1時30分

「百花繚乱、地球の出来事は百花繚乱の技です。私は愛のエネルギー体です。いろいろたくさんの物語を知らせましたが、これだけではないのです。地球のあらゆる出来事は、雄花の人間の思いと雌花の霊の思いが実を結び作られます。そして大切なことは、霊の思いが雌花だということです。ということは、霊がどう思っているかでこの世の出来事が決まっていくのです。それでこれまで何度も言って

いるように、霊を認めないとお知らせをして出来事を見せるのです。

本当の物語は霊の学びがあるのです。霊はのんべんだらりとした生活を望みません。それを望む霊もいますが、それでは学びにならないので、綾を織りなすようにいろんな出来事を起こしているのです。人生は織りなす綾の物語です。いろんな出来事があるので、織り出されるタペストリーのようなものです。

生が終わったとき織り上がったタペストリーを見て、ここが良かった、ここが悪かったと自分の霊と指導してくれた霊が話し合うのです。そしてさらに成長するために、どこの星に行くのか、また人間として生まれるかを決めます。小さな出来事でも他の人を喜ばせるときは、ピカリと光った宝石になります。『情けは人の為ならず』ですね」

2000 年 6 月 21 日 1 時

突然目が覚め

「霊界は思い出の場所です。何らかのモノの思いの塊がつついて起こすと、そのことで霊が目を覚ますのです。そのことで思いが蘇るのです。訪れるモノがなければ霊たちは眠っています」

2000 年 3 月 7 日朝

「昨夜眠くて書かなかったパラレルワールドについてお知らせします。お風呂で久しぶりに、バミューダトライアングルでいなくなった飛行機はどうなったか聞かれましたね。その答えです。それがパラレルワールドなのです。パラレルワールドはこの現実が表とすると、何年か先の世界があるのです。それは理解しにくいと思いますが、この世界と同じ所にあるのです。

説明がとてもしにくいので仲間の助けを得ます。パラレルワールドとは、同じ空間で別次元があるのです。その体験をたくさんの人がしています。あなたも、昨日あったお店が次の日空き地だったということや、ホテルから見たあの空の雲（天女がたくさん立っているような雲）は別次元の空だったのです。あのミステリーサークルの図（10）（76）を参考にすると、少しはわかるのではないですか。

幽霊も別次元です。（著者：ちなみに私は一度も見たことがないし、その場所にいて他の人は見たが私は努力しても見えなかった）霊界とは違います。

元に戻ります。消えた飛行機は別次元に行ったのです。そして消えた人間は穏やかな人生を送りました。TV で、生まれる前の子供が現実にこの世界に来ていたでしょう。あれがパラレルワールドから来た子供です。子供が寝てい

る間にいなくなったり一瞬の間にいなくなるのは、パラレルワールドに行っているのです。本人は、お知らせせずに行ったことを皆お詫びしています。

パラレルワールドには行きたくても行けません。行こうと思うと行けるところは、下がった次元です。すなわち幽霊の次元です。あらゆるネガティブな思いを持ち続けたり、それらの幽霊を助ける役目の人になろうと思うと行けます（？）」

2000 年 4 月 18 日 21 時

「今以上に面白い話をします。私は射手座のミヨです。26 年前のミヨです。若い感じがしたでしょう。射手座にいた霊が地球に来ていたのです（？）。白色星団が教えてくれたのです。若くなりたいと言っていたミヨに教えてあげてと。身をもって体験したでしょう。若く感じたでしょう。（著者：本当に思った）いつでもというわけにはいきませんが、霊はこうして行き来できるのです」

「射手座にパラレルワールドがあるのです？。射手座では 1973 年 4 月 18 日と」

2000 年 2 月 28 日

うたた寝をしていると、とてもたくさんの金粉（？）の

ようなものが一点に集まり、しばらくすると黄金のマスク（若い青年）が現れ「“ 星の宮 ” のマスクを作りました」と星たちより知らされる。

「星の宮は女性なのです。あなたに好いてもらおうと若い男性を夢に見せたり、黄金のマスクを若い男性にして見せましたが、やはり本当のことをお知らせします。私たち星のお母さんなのです。シングルマザーです。そして以前に愛の意識体と言っていたエネルギー体こそ、星の宮なのです」

2000 年 5 月 18 日 5 時 45 分

「変わらぬ愛を送る星の宮からです。私（星の宮）の言いたいことを伝えてくれて、うれしいのです。私が皆さんにお伝えしたいのは、お知らせがわかる人が増えて多くの人がわかってくれるようになり、うれしいということです」

「これはなぜかというと、ミステリーサークル（49）でお知らせしたように、いわゆる高次元と三次元が引っ付いてきたからです。星たちがマークした人は、これからますますおもしろいお知らせがなされるでしょう」

ミステリーサークルを今年は描かないと言っていたのに描いているので聞くと

「なぜか私は言えません。嫌がられても描くのはなぜかというと、お絵描きをする楽しみを覚えたからです。あなたにはもっとこれから物語を教えます。

2000 年のミステリーサークル（108）は小さな三角がたくさんありますが、まだまだ小さなオニはたくさんいるということです。六つの花びら（113）の花は、絵を描く者が六つだからです。この花を見て元気を出してほしいのです。勝手に描いてごめんなさい。お詫びに描きました」

2000 年 4 月 1 日 0 時 40 分

本をあげた友人から全然意味がわからないと便りが来たので、本が売れるか心配していると

「春の野にたんぽぽの綿毛が飛んでいきます。あの押し絵（11）を思ってください。あの絵になぜタンポポの綿毛を描いたかというと、一つの種が世界中に飛んでいって花を咲かせることになるので、あの絵を描いたのです。そう思うと何も心配ないでしょう。お終い。

変わらぬ愛の星の宮より」

「本当の物語はロボットではないものが伝えているものです。次の本の始めに、このことを書いてください」

「２年近くチャネリングをして思ったことは、子供のような言葉で話しかけてくるものもあるということです。子供の星の霊からもありますが、我々のロボットから勝手に伝えられるものもあるということです。それらは星の宮の言葉ではありません。お知らせの言葉を伝えるのではなく、話すことがうれしくて楽しんでいるだけのものもあることがわかりました」

2000 年 3 月 26 日

突然猛吹雪が短時間あり。問うと

「以前別れる者が出ました、と言っていた星がお知らせしたのです。本に『名のない星』と出ていますが、『名のある星』がお知らせしたのです。『名のある星』です。これまでは仕方がありませんが、これからは『星の皆さん』とだけ言ってくれますか？」と言ってくる。これからは『全ての星の皆さん』と言うことにする。頭頂部の痛みは全くなくなる。

2000 年 2 月 20 日 23 時 30 分

「お寝間の物語です。変わらぬ愛を送る星の宮です。私は遠くにいてあまりにも地球のことがわかりませんので、あなたに降りるのです。地球に降りて身近に現実を見るようにという、星たちのアドバイスでした」

星たちは「富を分けないで死ぬと、死後悩まされます」とだけ言ってくる。

2000 年 2 月 18 日

白い霧の中を飛行機が飛ぶ

「この白い霧がなぜできるかというと、山から命の素である水をこのようにして広い範囲に散布するためです。この白い霧が雲で、あなたがお空を見ているといろいろな形になるのは、この白い霧を山から気流に乗せて、お空でお絵描きをしているのです。何の力で描くかというと、星の想念で描くのです。

明るい空ばかりだと、命の水の固まりがお水に変わるのがそこの川だけになるので、お空に広く命の水を広げるのです。そしてお空からあちこちに雨を降らせるのです。なぜ白い霧になるかというと、山の風が白い霧にするのです。水の固まりは水だけではありません。白い霧が突然わいて

くるのはなぜかというと、地上の水を風の力で細かな水をガス状にするのです。地球をなぜあのようにいろいろな形にしたかというと、星たちのいろいろな思いがあるからです。

星たちが急いでこれからの気候を変えようと試みています。変化のある気候より人間が住みやすい地球にして、皆仲良く平和に暮らしてほしいからです。ある程度はそのままですが、砂漠に雨を降らせようと試みています。

星の宮からでした」

2000 年 2 月 29 日朝

「砂漠化が広がる訳は北の者が繁栄しすぎたからです。温暖化のためです。砂漠化になるのは地球がお休みしているからです。そしてそこから呼吸をするのです。そうです。コンクリートで覆われると呼吸ができないのです。それでおいたをしています。

地球神が言いました。地球の温暖化は人間の問題です。これまでのようにわがままな生き方はお知らせされ続けます。この物語を信じると無駄なことはしなくなります。

星の者たちが伝えました」

2000年3月1日22時30分

寒さが厳しいので問うと

「月ヨミの尊です。日本をハワイのような気候にしようと思いましたが、海面が異常に上がるといけないのと他の国がおかしくなるので止めました」

（著者：南極の氷が溶けているのはどうすればいいですか？）

「この前も言ったように、わがままな人間の生き方が温暖化にしているので私の力では止められません。この言葉を伝えてください。これ以上エネルギーを使うと地球は怒りますよ」

地震が続くことに対して

「地球の身体がとてもえらくなる（つらくなる）のは流れが悪くなるからで、その流れを良くするために火山の噴火をするのです。そしてその前に地震を起こしますので、そこから離れてください。わがままでしているのではありません。お願いをしてください」

2000年7月20日9時

小さな空気を飲み込む（霊が降りる？）

「孔子です。今の今までなぜこの国の者が降ろしてもら

えなかったかというと、いまのやり方が間違っているからです。これから生きていくのに、何が必要かよく考えていただきたいと思います。

お国が砂漠で埋まろうとしているのはなぜかというと、今の人々の考えがおかしいからお知らせされているのです。お知らせをよく聞いてください」

2000 年 6 月 17 日 2 時 40 分

突然目が覚める

「星の宮です。部下の者が次のことを知らせてくれました」

「なぜ松本があのように長い間地震が続いたかというと、信じられないと思いますが、松本に私の部下が作ったロボットが降りていたのです。なぜそこに降りていたかというと、それから松本の町から噴火が始まると思ったからです。当時の日本は環境破壊がとてもひどく、どのように影響していたかということを、学びの者（サリンの河野さん？）がわからされたのです。（寝る）

あの松本でなぜ事件が始まったかは意味があるのです。あの松本でとても恐ろしい計画がなされていたのです。そうです。大噴火でした。そして身代わりに多くの人が亡くなったのです（松本サリン事件）。このことは、いつかは

お知らせしなければと思っていました。地球神をMは脅かしていたのです。美しい松本を破壊する計画でした。今は何もいなくなりました」

「星の者です。お知らせします。インドの教えは、本当のことはわからないことを知らせています。そしてこれからは生きている人の話すことで教えられます。（ライフスペースや法の華の問題）星の魂を持った人が思い出しています」

2000年3月21日

カルトの集団自殺について

「集団自殺は、以前あなたがMに支配されていたとき『霊体でMに連れていってあげる』と言われて自殺をしようとしたのと同じです。今度のお知らせは、以前『別れるものが出ています』と言っていたときに別れた星の一部がお知らせしたのです」

2000年7月10日

キーンと音がする。（雪印の牛乳の機械を大阪市が検査したらマイナスだったというTVを見た後）

「星の者です。べとべとしたものです。なぜあの検査で黄色ブドウ球菌が出ないかというと、(I) 社長が謝ったか

らです。社長の言葉でおいしい菌に変わったのです。わかりますか？　頑固な思いのまま流れて行くのです。それで大騒ぎになったのです」

突然ゴクンと空気を飲み込み目が覚める。星の宮のロボットの霊が入ったと知らされる。お腹の中で動く気配あり。一昨年スサノオが入ったときと同じような感覚である。お腹の中のことを報告しますと

「胆嚢が怒っています」（著者：24 才のとき、造影剤を入れたことでとても痛めつけらたのに謝らなかったと）謝る。それで貝を食べたときに酵素を出さなかったので、お腹が痛くなった。次に十二指腸が「コーヒーを止めてほしい」と言っていると。

肺をのぞくと言われ、突然 2 回咳が出る。小さな穴がたくさんあると言われただけ。次に腸がとても痛んでいるのは肉のためと。「少しのかしわ（とり肉）とお魚でいいのです。お肉を食べ過ぎると大腸ガンになります。これからますます増えていきます」

「次に新しい数え歌を教えます。

一つとせ　人の命は縮むでしょう　縮むでしょう
　　そんなにお肉を食べてると
二つとせ　太ったあなたは風まかせ　風任せ

光の柱は消えかける

三つとせ　身につくものは脂肪です　脂肪です

本当の筋肉どこにある

四つとせ　世の中あまりにせわしない　せわしない

あなたの頭はクルクルパー

五つとせ　いつかはこの世とおさらばよ　おさらばよ

その時慌てぬ心掛け

六つとせ　昔のご飯が良かったよ　良かったよ

足らずが身体に丁度良い

七つとせ　長生きするにはお知らせを　お知らせを

しっかり聞いて実行す

八つとせ　やましい心は身を壊す　身を壊す

オニの心を吹っ飛ばせ

九つとせ　苦しいときの神頼み　神頼み

そうは問屋はおろさない

十とせ　　とうとう出ました星の宮　星の宮

真実一路の物語　物語」

（あなた＝読んで思い当たる人）

「お腹の物語を書いてください。身体の器官と話をしてください。

肝臓＝小松菜とリンゴのジュースをください。

小松菜を植えてください。

胃＝よくかんでください。

腸＝毎日お腹のマッサージをしてください。

目＝星の宮のエネルギーをもらってください。

　　星を眺めてください。

脳＝本当の物語なので疑わないでください。

『学び』の言葉＝『お知らせが全てを語る』」

病気のお話

「オニが悪さをしていることもありますが、壊れ物（不安・悲しみ・怒り・恨み）を捨ててください。どうすれば良いかというと、あなたの霊に頼むのです。『私の霊さん、仲良くしたいので壊れ物を捨てるお手伝いをしてください。あなたのお知らせは星からのお知らせと同じだと思いますが、できれば面白いお知らせでお願いします』と頼んでください」

「チャクラとは、脳・のど・胸・胃・腸・性器の霊のことなのです。話しかければよいのです」

風邪はどうして引くのか？

「招き猫です。身体がそろそろお休みしたいと思っているのに、嫌な仕事をしなければならないときに細菌を招き入れるのです。『細菌さんおいで、お仕事が嫌なのでこち

らに入って』と。風邪を引かないようにするにはいろいろありますが、一番胃に入りやすいので胃に頼むのです。『胃さん、はい困さんが来たいと言っても“今はごめんなさい”と言ってくださいね。

その代わり、あなたにご無理はさせませんから。そしてお腹を温かくしますから』と頼んでください」

「足が痛くなるのは“このままの道を進むことが間違いですよ”ということを、あなたの霊がお知らせしているのです。霊がわかる人で別れた人がいたら、その人と元に戻りなさいということです。その頃に別れた人がいなければ、進んでいる道が間違っていますよということです。

いずれにせよ霊が知らせていることに気づくように、あなたの霊と会話をしてください。直感やひらめき、夢でお知らせしようとがんばってくれています。星たちも見ていてァドバイスをしています」

2000 年 2 月 2 日夜中

昨夜、ペットボトルで作ったシャワーの TV を見たあと夢を見る。突然目が覚め

「そのシャワーの下にいるのが私なのです。そのペットボトルが人間なのです。頭のキャップを少しゆるめてくれると流れが良くなり、お湯がたくさん出るのです」(人間

の考えも同じで、頑固に思いこまないで頭を柔らかくすると、あらゆる情報が自然に入ってくるということ）

「日本の赤ちゃんのおむつの当て方がおかしいのです。あの姿勢（寝て足を広げる）で寝かされるので泣くのです。ペルーのインディオの赤ちゃんの方が泣かないのは、あの姿勢の方が股関節にはいいのです（？）。すぐ怒る子供になるのは、おむつのせいなのです（？）」

2000年4月28日23時10分
「書いてください」と

「今子供の心が荒れているのは、生きようとする魂をオニに食べられたので、その人たちがオニになったからです。オニが降りてお知らせをしているのです。一つの物語です。お知らせはそのことを知らせるために、星の瞬きをがんばってハッキリとしたのです。（著者：昨夜は西の空の大きな星がとてもハッキリと瞬いていた）それではお休みなさい。星たちより。この言葉を必ず打ち込んでおいてください」

2000 年 4 月 15 日

「ヨミの国の国王の好物は涙である。鼻を刺激すると涙が出るので鼻の悪い人が多いのです。わしの話を信じてくれたら好物を唾液にする。お前が大変な思いをしておるとき､ワシも何とも言えん気持ちだった｡オニの目にも涙だった」

「ミラー星（霊的）は月の裏にあり、人間の悪の量を計ってカルマとして記録する星」

2000 年 4 月 20 日 3 時 50 分

大雨で目を覚ます

「ヨミの国王です。昼間は晴れてほしいので、夜の間に急いで雨を降らせています。春先の吹雪はお知らせでした。私の物語を追加して書いてほしいのです。今では何も心配ないこと＝それは生きている間のお知らせのことです（？）。

お知らせは、星の霊の存在を信じると嫌なお知らせはないと言いましたが、その人の進む道が間違っていると嫌なお知らせをされます。必ずなぜそのようなことを知らされたか、よく見つめ直してください。これが私の言いたかったことです。

ヨミの国には仲間はいません。なぜ白いヨミの国の中を

通らなければならないかというと、自分の一生を反省するからです。そして自ら反省し、わかれば素早く通り抜けれます。そして仲間のいる霊界に行けます（同じ思いの仲間です）。それから星に行く人と霊界に残る人とに分かれます。人間としてのお仕事を済んだ人は星に行けます。星になるには、なすべきことをしなければなりません。それは「情け」という気持ちを行動に起こさなくてはなりません。人のために何か行動を起こさねばなりません。それがとても大切なことです。

今若い人が冷酷な行動をしていますが、星の霊と人間の霊が相談してお知らせをしています。何をお知らせしているかというと、人が悪いのではなく霊を信じることが大切なことを知らせているのです。お知らせ役の人は、また人間として生まれ変わってもらう約束です。仲間の者が呼んでいるので、同じような事件が起こるのです。オニの想念があるからです。これからも皆が気づくまでお知らせは続きます」

2000年3月31日23時50分

左手が痛い

「今霊界にはいなくなったオニがまだ地球にはいるのですね。人間の力で地球を平和にすることはできるのです。

学びの者が教えてくれました。仲間がたくさんいるのになぜ人々は殺し合いするのか？それは魂の求めていることを知らないからと。魂は誰でも愛のエネルギー体に戻りたいのに。人間は気づくことなく、死ぬことを怖がっているのです。

誰も知らないからこのことを伝えたいのです。そうすればこれまでオニが支配していても、今日からでも『愛のエネルギー体に戻る』と宣言すれば、楽しく人生を終えることができます。ill、から思わないと星の者はわかります。それではこのことを皆に知らせてください。お休みなさい。

変わらぬ愛を送る星の宮より」

2000 年 4 月 13 日 1 時 15 分

突然目が覚める

「書いてください。“ それがとてつもないことだから世間が受け入れない ” と思うと昼間言われたでしょう。そのことがとてもおかしいのです。一番大切なことなのに。そのことがわかると、世の中で起きていることの意味がわかるでしょう。

それなのに、昔お知らせされたことばかり信じていることの方がおかしいのです。（著者：情報の全てが正しいのでない。おかしいのも混じっていると昼間言われたことに

対して）このことをどうしても書いてほしいのです。

星の者たちより」

2000 年 7 月 20 日

強い地震がある。いつまで続くのか聞くと

「お知らせください。本当は、今年は陸の半分は壊され石器時代のようになる予定だったことを。予言は計画されていたのです。（著者：Mの計画は 98 年は大干ばつ、99 年は大冷害、2000 年は大地震の計画だったと教えられました）そのことを信じなく、のん気にしているのでお知らせしているのです。オニの気持ちを捨ててください。恐れをなくして感謝して楽しく生きてください」

2000 年 4 月 4 日 23 時

「名のある星です。これまで悪者のように思われていたのが、たまらなく嫌なのです。これからは私たちも一緒にお手伝いします。それでできるだけ早く第 2 部の本を出して、私たちのことを知らせてください。学びは終わりました。これからはすべての星たちがお手伝いすると、思ってください。星の力は大きいということも知らせてください」

2000年4月5日23時

「おおはね（?）の者です。書いてください。大羽は何を現すかというと、今の言葉でエンジヱルと言います。なぜ今まで降りてこなかったかというと、私たちもMの仲間だったのです。（著者:本当ですか？）信じられないでしょうが､観音様もそうでした。今からこれの答えを出します。

私たちはお知らせ役の星の者でした。そしてMに言われて姿を見せていました。その姿は光で現しました。いつ現れたかというと、いつでも心のきれいな人に見てもらいたいと思っていたので、その人たちに見てもらいました。そしてオニのいない間にその人たちを助けていました。ォニたちはおもしろおかしく人間を支配していました。それが可愛そうだったので助けました。ォニの望みはこの地球を絶えず争いやけんかをすることでした。それが一番の楽しみだったのです。彼らの目的に反対するわけでもなく、自分たちこそ神の使いなのだといい子ぶっていたのです。

これでおわかりですね。私たちが今まで降ろさせてもらえなかったことが。仲間のようなものでした。そのことを地球の皆さんにお詫びいたします。皆さんに私たちだけが神の使いだと思われることは間違いであることをお伝えに降りてきました。あなたの本に私たちの許しの言葉を載せ

てください。それで私たちは星の仲間に戻れます。
大羽根のものより。おしまい」

2000年4月6日0時50分

「変わらぬ愛を送る星の宮です。そうなのです。これまでと同じでした。悪いことをして人間を支配している星の者がいても黙っていたので、さっきの大羽根の者にあのように言ってもらったのです」(著者:やはり大羽根の方(天使)が神様の一番のお使いの方だったのですね。あらゆる星の方が地球を見守ってくださいます。我々人間が、平和な地球を作ろうと努力をするようにします)

「名のある星も地球を見守っています。これからは、あなたたちで平和な地球を作ってください。すべての星が見ています」

1999 年 12 月 12 日

畑に行く途中、青空を見ていて「星の皆さまはお昼もお空におられるのですか？」

「ようやくわかってくれましたか。私たちは昼も夜も上から見ているのです。恥ずかしいことを隠れてしても、すべて私たちは見ています。神様の部下で星の数だけいるので、たくさんの者がそれぞれを見ているのです。建物の下でも関係なくよく見えます。そうです。夜も昼も関係なく星の数だけものが見えているのです」

2) イシカミからのメッセージ

イシカミのこれまでに伝えられたあらすじ

大昔射手座から丸いボールの様なものに入り地球にテレポート（？）してきた山のように大きな巨人がイシカミです。(3)(42)(59)(デエダラボッチの物語)。

世界中のあちこちに降りてきたが、地球の引力が強いため柔らかい体の一部がぽたぽたと落ちた。それが「落とし物」である。粘土のように柔らかい落とし物は自由な形に作れ、ギザのピラミッドを始めあらゆる巨石文化を巨人のイシカミやその子孫が作った。人間のためにいろいろと知恵をテレパシーで伝えたり、食物を改良したり与えたりしてくれた。

射手座ではピラミッドパワーを使っていた？ので、ピラミッドを作ることは得意であった。地球でもピラミッドパワーを得ようとしたが、引力が強く歩くことができないのと食べ物がなく早く途絶えた。エジプトは食料が多く七代まで続いたが、歩くこともままならずエジプトの像が歩こうとしているポーズはここから来ている。

イシカミの子孫がヱジプトの王様やギリシャ神話の神様の元でMの霊に入られたのもあるが、イシカミはとてもやさしかった。

シナイ山、パルテノンの丘、御在所岳、イシカタヤマ（猿投山）、石巻山、岩木山、青葉山、剣山などはイシカミやその子供の遺体で山の神の始まり。

日本に降りたイシカミの末子は、地球に生まれたためとても苦労しなければならなかったので怒って、富士山に頼んで落とし物を隠すまで噴火してもらった。

マリモはイシカミが湖に頼んで形を残してもらい、お鏡もちはイシカミの姿を真似た。

エジプトで糞転がしを神聖なモノとしたのは、動く姿がイシカミの姿に似ていたからである。

1999 年 4 月 18 日 4 時 45 分

突然「ギフ」という言葉が聞こえる

「ギフが日本の中心なのです。私はイサカミで、大昔日本に射手座から降りてきました。とても身体が大きくいつも食べ物が足りなくて、遺伝子操作（？）で小さくしていきました。日本にも巨大遺跡はあるのですが、川の砂で隠されています。川が氾濫して上に積もっていったので遺跡がないと思われていますが、木曾川の下に巨大遺跡があります（？）。

イサカミがなぜ蘇ったかというと、あなたが岐阜に行きしばらく電車が止まったでしょう。あそこの下に私がいた

のです。それで蘇ったのです（？）。私は疲れたので白色星団と変わります」

「祈れる者イサカミという意味です。子孫はあちこちに増えていきました。ちょうどネズミのように、小さくなった人間は広がっていったのです。そうです。今の人間と同じ形をしていました。縄文人となりました。

なぜ高度に進化した子孫がそのようになったかというと、遺伝子操作にいわば失敗した単純な脳の人間だけがたくさん増えていったのです。複雑な脳の人間は消えていったのです。それでなぜ縄文のようになったかわかるでしょう。巨大遺跡には大きなお鍋やイスを作りました。山に入り飢えをしのぎました。エジプトにたくさんの遺跡があるのは、たくさんの食べ物があったから巨人でも長らく生きられたのです。

それでも沖縄の巨大遺跡は巨人が作りました。その頃は恐怖の政になっていました。食料がなく何とか生き延びるために熾烈な競争が生まれていました。

石が至るところでピラミッドにされたのは、そのエネルギーで何とか地球のエネルギーを上げよう思ったのです。いわゆるピラミッドパワーで地球を活性化しようとしたのです。あらゆる所にピラミッドを作りましたが、地球人のエゴがエネルギーを下げて３次元になってしまったのです。

争いばかりしていた巨人は滅び、遺伝子操作で残っていた優秀な者がアトランテイス人で、3•4 次元にいました。

ミナカミ山もピラミッドです。富士山は火山が作りました。射手座も白色星団の一員なのです。ただ太陽系に入らないので遠慮していたのです。Mの仲間のＰも初めは白色星団の一員だったのですが、収縮するというので白色星団を自分の支配下に置こうと思ったのです」

2000 年 5 月 2 日 0 時 30 分

眠れず

「イシカミが降りました。私の最後のお話がしてないので書いてください。私たちのお知らせがわかりませんか？私たちが降りてあげなかったので星の宮が忘れられたのです、と星たちに言われました。そのことを伝えに降りてきました。仲間のことをお知らせしていないので伝えに降りてきました。オニが利用した落とし物もあるということです」

2000 年 4 月 12 日 23 時 30 分

「落とし物でもMの仲間のＰは利用していたのです。大昔はMの仲間のＰは白色星団の一員でした。それで落とし物を利用することができたのです。それらの石を利用し

た恐怖の政は忘れられません。このようにすべての落とし物ではありませんが、オニが利用した石もあると言うことです。山の神社でもオニが利用したものもありますが、オニが悪いのであり山は気高い存在です」

2000 年 7 月 12 日

「でんでんむし……」の歌を口ずさむ

「でんでんむしがいなくなったのを今頃気づきましたか？あの渦巻きはアンモナイトと同じですね。なぜいなくなったかというと、急いでお家を作ることが間に合わなくなったからです。アンモナイトから殻を取ったらヘビになったと言いましたね。でんでんむしの殻を取ったのもMでした。そしてナメクジに変えたのです。

ナメクジにお家（殻）を持たせるにはイシがいりますね。イシがなくなると大変なことになる所でした。オニが食べたのです。オニがいなくなるまで地球に降ろしません」

（著者：イシカミが忘れられているということだと思います。）

1999 年 11 月 30 日

小豆島へ向かうフェリーの中で左手が痛い。問うとイシカミです

「お友達がいなかったので土を掘っていました。そうすると海と海がつながった。

鳴門の渦潮は宇宙の形と同じになるように作りました。大きな土の固まりを取ると渦巻きになりました。ブラックホールと同じです。ブラックホールに入ると何もかもなくなるように言われていますが、別の宇宙（？）に行くだけです。別次元はこの宇宙で行けますね。体験したでしょう。別の宇宙はミステリーサークルに描いた通りです (10)(76)」

2000 年 5 月 30 日

「でえだらぼっちのえったぬし」という言葉が絶えず口に出る

「でえ＝どえりゃー＝ものすごい（愛知県の方言）

だら＝だらだら落ちる＝イシカミの落とし物（方言）ぼっち＝ぼれい＝貝

ものすごくだらだら落ちる人が貝を食べる人＝イシカミの 3 男＝石巻山になった。

えったぬし＝えにしより田を作らされ差別された人＝ヤマタイコクの子孫。

イシカミの話をする人を差別して、イシカミの話をさせないようにしてきた」

1999 年 4 月 18 日 8 時 30 分

「イシカミです。なぜイシカミと呼ばれるかというと、石を生んだからです（?）。ギリシャ神話にあるように、私は女でした。

私が一番嫌なのは、今でも謎なのに見えない世界を信じないので謎が解けないのです。巨人の私の霊も人間の霊も同じなのです。

イシカミはだんだん年をとっていき、員弁郡の妹のそば（?）で横になりました。そして山になりました。御在所岳なのです。なぜそんなに大きくなったかというと、遺体の上に土を山のように盛ったからです」

2000 年 7 月 19 日

ストーンサークルの意味は？

「それはイシカミの身体が丸いことを思い出すために、あらゆる石を集めて丸く並べて伝えていったのです。イシカミに食べ物を与えてもらったので食べ物をください、とその丸い形を拝んだのです。真中に立ててあるのは芯(?)と思っていました。言葉がないのでテレパシーでお願いを

していました」

あなたの祖先がイシカミの祭り（星まつり）をテレパシーで伝えてくれたのです。それでストーンサークルが世界中に広まったのです（？）」

2000 年 7 月 18 日

「祭りだ、祭りだ……」と言うメロディーが出てくる

「星原は“星のべ”と言う言葉が“星原”になりました。星野辺→星野原→星原に。

（著者：星原は谷間の村なのになぜ星原というのか思っていた）

祭りはイシカミに感謝することをここから始まりました。

（著者：以前にも星祭はここから始まったと知らされた）

2000 年 6 月 25 日

御在所岳に行こうと思っていると

「御在所岳にはオニはいません。ワラビがたくさんあります。ワラビの形がなぜあのようになっているかわかりませんか？そうです『？』です。ワラビにはひとつの毒があります。そのことがわからなかったので私は早く死にました。（著者：以前にも伝えられた）私は御在所岳になった

イシカミの母です」

「星からのメッセージをわかってくれないので、その形を残したのです。なぜひとつの毒を入れたかというと、そのことに気づいてもらうためです。

星たちより」

「毒は煮ると消えると私が死ぬ前に人間に教えました。

イシカミの母より」

1999 年 4 月 15 日

「南のいと高き山にいます。イシカミです。地球の割れ目から何かが出てきています。とても柔らかい石です。私が出しました。ジャングルの中にあるので見えませんね。若挟にある石観音は私の落とし物です」

「“ かがみもち ” はイシカミを現したものです」とだけ言ってくる。

2000 年 7 月 17 日

TV でシュメールのことを写していた。メッセージと違うので問うて寝ると、何回も起こされる

「葦を小麦に変えたのはイシカミなのに、身体をばらばらにしてイシカミのお知らせのことを書いてないので怒りをかったのです。違う神の言葉として嫌なことを書き記し

たのが嫌なのです。何よりもイシカミの霊を信じなくMの部下の女神の言うことを信じて、死んだら何もないと思っていたことで星たちは厳しいことを言っていたのです。そして川の流れを変えてお知らせされ国が滅びたのです。

粘土版の文字がいくつもの訳ができるというのは、その文字を書いた人が訳もわからず書かれていた文字を書いてお金代わりに使っていたからです。なぜあちこちにあるかというと以前言ったとおりです。

大昔の壁画に星と手形が書いてあるのは、射手座から来たイシカミのことを忘れないように、また星にお願いをするように手形を書いたのです」と言ってくる。

2000 年 3 月 4 日 21 時過ぎ
不思議発見の TV でサウジアラビアの岩山を見て

「あれこそあのイシカミの亡くなった姿なのです。砂漠に降りたため何も食べることができなく、そのまま死んだのです。お知らせするために降りました。このことをムハメットの国サウジアラビアに知らせてください。“イスラムの教えは感謝することと、人間みな神の子で平等と思うことが素晴らしいのに、なぜ敵を倒すのですか？”と星より言われています。

ムハメットより」

2000年6月23日2時

「今から言霊のことについてお話しますので書いてください。言葉はなぜできたかというと大昔、お昼になると今で言うご飯を食べるために集まっていました。.多くの言葉はこの皆が集まる『ワ』ということが始めでした。そして次が食事のことでした」(寝る)

「なぜ“イワクラ”というかお知らせします。イノリをしてそこでワになり、落とし物の学びをしました。そこで暗くなるまでしたからです。そこに座ると生命が長らえると思っていました。これはヒミコがお知らせしました」

2000年6月19日14時

「惜しまれて亡くなった者たちの物語です。こだまの物語です。イシカミです。

マリモのことです。なぜあそこにマリモができるかというと、これはカムイのせいなのです。イシカミが別れるときにお願いしました。イシのことを伝えてくれるように、霊で話しました。そしてイシカミの姿になるように湖に頼んでおいたのです。湖のそばの山がイシカミなのです。それでお知らせしてくれているのです。

なぜカムイかというと

カー＝こたま。

ムー＝ヌー＝野牛＝動物。
イ＝イシカミ＝イノリ。

イシの物語を伝えてほしいと、こだまで伝えてもらったのです。何でお知らせしたかというとム＝ヌ一の皮の太鼓です。

イシカミのことがわかる人が来てくれました。それでお知らせをしに降りてきたのです。

オニがいなくなりました。それでうれしくてエメラルドの光を見せたのです。（著者：きれいな緑色の光が見えた）

言霊とは、言葉を発することによりこれまでの思いの塊がそこから波となって流れ出すのです。言葉の意味はカムイの思いが流れることなのです（？）。言葉の思いの大切なことを伝えています。それが言霊という意味です」

2000年5月1日1時

痒くて目が覚める

「コロラド川の近くに降りたイシカミが文句を言っています。本に書いてもらえないからと。コロラド川のほとりで可愛い女の子を川に投げ入れさせたのは、お決まりのMのセイでした。それを悲しく思いながら見ていました。

私はイシカミです。お知らせすることは、仲間がヮケの実をトウモロコシにしてあげたのに、オニの入った者は殺し合いばかりしました。イシとカラス（？）が一番尊いと知らせたのはイシカミでした」

2000年3月22日

シェーンの映画を見てから寝る

「私たちもあのように光るピストルに脅かされて、土地を奪われました」

とインディァンが降りてくる。その他いろいろな霊が何か訴えるも、寝てしまう。

2000年3月16日0時眠れず

「川風に吹かれています。コロラド川です。私はインディアンの酋長です。初めまして。なぜインディアンがこんなに遅くなったかというと、意地があったからです（？）。私たちは星の方がお知らせさせてくれませんでした。これからはお許しがでましたのでこれまでのことをお話しします。

インディアンも一頃はMに支配されていました。それでお互い殺し合いをしてきました。でもすべてのインディアンではありませんでした。その代表がホピ族でした。そしてあの絵（ホピの岩の絵）を教えてくれたのがイシカミでした。そしてアメリカ大陸の不思議な岩はイシカミの作品です。

アメリカに降りたイシカミは、北を通って来たインディアンを見つけていました。そしてワケの実をトウモロコシに変えたのです。そして病気を治すこともテレパシーで教えました。鳥の羽を大切にするのはイーグル星のことを伝えるためでした」

「星の者です。なぜインディアンを今まで降りて来ないようにしていたかというと、ミステリーサークルの解説が意味をなくしているからでした。そのためでした。

これまでのオニ（白人にいじめられたこと）のことは忘れてください。そして一番楽しいことを思って生きてください。インディアンへのメッセージでした。

変わらぬ愛を送る星の宮でした」

2000年6月15日

咳が突然出る

「お知らせです。イシカミです。何をお知らせするかというと、これまでの物語ではお知らせしなかった悪いことです。何が悪いかというと、イシカミが悪さをしていました。それは広い言葉でいうと、地球神に頼まれたからでもあるのです。

地球神が今にも身体が起きれなくなるほど（イシの言葉で言うと）身体が悪くなるので、私の身体の中の流れを外に出すのです。そして今から出しますよ、と地震を起こすのです。噴火をする前に地震を起こしてお知らせしますので、そこから逃げてください。

噴火をなぜするかということがわかりましたか？私がわがままだから噴火をするのではありません。何事も流れが大切だからです。私の中にも流れがあります。溶岩は一度にたくさんでなく、お祈りをしてくれることで少しですみます。

地球も生きていることを知ってほしいのです。これまでは人のことは思っていませんでした。私が生きていると思う人がいなかったからです。今では私も生きているということを知る人が増えたからです。

私はイシの言葉でいうと一人前の星だそうです。オニがいなくなったので壊れ物（恨み . 不安などネガテイブな思い）を捨ててくれれば、大きなお知らせは止めたいと思っています。でもまだまだ壊れ物が多いので、知りません。

それではお日様にこれからもよろしくとお伝えください」

「9000 年前の白人の遺骨がアメリカ大陸にあった」を見た夜

「イシカミです。私がお連れしました。私は北の島に降りたので、たくさんの昆布を食べて元気でした。水に浸かっていたので体もぼたぼた落ちなかった。小さな船に人が乗っていて遠くに行きたいと思っているのがわかったので、押してあげました」

遺骨の人（?）から「嵐の日に船で逃げました。女の人と一緒でしたが、途中でその人は死にました。女の人は王様の所へ（結婚して）行かなければならないので逃げてと頼まれたのです。エゾではない……。」

「イシカミです。私は悪いモノではありません。私がここにいることを知ってもらいたくて、人（霊）を呼びました。たくさんの人が来て戦争になりました。今は射手座に帰れました」

エアーズロックを見ていると

「ああおいたわしや、こんな平野に降りられて。本当にこれこそ射手座から降りたモノです。オニに支配されなかったことがうれしかったです。オシの言葉(テレパシー)でお大事にしてくれました。このことをアボリジニにお礼を言ってください。おいたわしや。これが本当のイシカミの姿です」

2000 年 7 月 18 日真夜中

「シラヤマのお使いの人がお願いをしてくれました」「イシカミです。星の中でも女性です（?）。星物語が世に広まらないのは、人々の霊的生長がとても遅れているからです。それでもホームページを見て、あなたが星とつながっていることがわかり始めています。そして広い宇宙から見るとたいしたものでないと思われるものが、本当のことを言っていると思っているのです」

2000年7月4日

言葉の始まりを聞かれていた。

15㎝のミイラがあるとTVで紹介していた。あごが異様に大きくて、X線で肋骨が人間と違い、脊椎の太さが人は下になるほど太いのに同じ太さと言っていました。

イシカミが人が喋れるように小さな人間を作り、喉の機能を工夫したと言ってきました。自分たちのことを伝えてもらうために､とても苦労したと｡コロボックルやインディアンの小人がそうで、パラレルワールドにいてこちらに来ることもあると。

「コロボックルは私たち（イシカミ）のことを伝えてもらうために作りました。石になった私たちは、二人で子どもは作らずコロボックルを作りました。

なぜかというと、祈りをする人がいたからです。広い野山を駆けめぐり、たった一頭のモノを捕まえておねんねするだけの人間を見ていると、可愛そうだったので笹を魚に変えてあげたのです。二人のエネルギーを合わせて変えました。このことも言い伝えてもらうために、わかる言葉で言い伝えてもらったのです。コロポックルはお知らせするための改良された人形です」

2000年7月8日23時

貝を食べたせいかお腹がしくしくする

「お知らせです。（イシカミの２男＝石巻山）地球に生まれて生きていくのが苦しくて、早く死にたいと思いました。それで石だと思い貝を食べていました。それでお腹が痛くなり死にました。誰も知らないので一人でいました。痛ましいことにお仕事がなかったのです。

私は若者だったので、言葉で知らせることができたのです。私は幸せなことにお話ができたのです。それで惜しまれて亡くなったのです。

小さなお仕事が、川の中に石を積んでお水が流れないように囲むこと（輪中？）でした。お兄さん（イシカタヤマ＝猿投山）と２人でしました。お知らせの意味が終わりました。（著者：しくしくした痛みがなくなる）

お兄さんは人間のようにお仕事をしていました。それはイシの言葉で惜しみなく人のために働きました。おいしい柿や梨の改良をしました。それなのにお兄さんを祭らないで動物の馬（？）を祭れと言われたのです。イシカミの話しをする人をいじめたのです。そしてイシカミは忘れられたのです」

2000年7月11日5時

「惜しまれて亡くなったイシカミです。広い野原（アジア大陸）に降りました。あまりの広さに驚きました。それでおいたをしました。広いだけでは面白くないので仲間と塊を積み重ね、故郷で習ったピラミッドを作りました。食べ物が少ししかなく、言霊でお話しました。

ある日、とても小さな人間たちが動いているのが見えました。そして東の果てに行こうとしているのがわかりました。それでやさしく土ごとその人間たちを友達に手渡しし、運んであげたのです。お知らせしたいことはそのことです。

あの高い山にしたのは私たちです。高い山の上にピラミッドを作れば私たちの願いが届くのでないかと、仲間の者が言いました。何度も何度も土を運びました。そしてその上に落し物で作ったピラミッドを作ったのです。それでも何も変わりがなかったのです。人間に惜しまれて亡くなったというのは、土を盛ったことで白い山になり、お水が流れるようになったからです。

それまでは平野でお水がなかったからです。高くした山は一年中雪が積もり、水が降りてくるからです。（著者：イシカミ様のおかげだったのですね）そうです。私たちが少しでも自然が仲間になるようにと思ったのです。

これが高い山から貝が出てきた訳なのです。

私たちの身体も山になり、身体が溶けて豊かな土になりました。必ず知らせてほしいのです。私たちが人間の幸せのために働いたことを、そして争いのない地球にしてほしいのです。

イシカミたちより」

2000年7月13日4時

「惜しまれて亡くなった者、イシカミです。白い山から水が流れることで平野が豊かになりました。そのことで私たちを神と敬ってくれました。そのことを良く思わないものがいました。（省略す）

5体投地は山がイシカミだと知っていて、全身を投げ出しイシカミに接触しようとしていることなのです。イシカミのエネルギーをもらおうと始めたのです。あのごろごろ回す物は何かというと、イシカミの仲間が落し物を木に刺して回していたのを真似しているのです。

南洋の石貨はテレパシーで知った仲間が真似したのです。数珠は人間のためにイシカミが作ったのです（？）」

2000年6月8日2時30分

「この静かなときにイシカミからお知らせします。今ではみな射手座で静かに暮らしています。お知らせしたいことは､シラヤマ（富士山）の神が元気になられたことです。シラヤマの神からエネルギーを頂きました。

火山の噴火がなぜ起こるかというと、イシがエネルギーをもらうためでした。お知らせは仲間がしていました。シラヤマの麓にたくさんの落とし物があったのです。なぜ美しい山になったかというと、イシカミの物語なのです。

イシカミの最後の子供がシラヤマなのです。地球に生まれたばっかりにとても苦労させられたことに、イシカミの最後の子供はとても怒ったのです。そして怒りを噴火して富士山ができたのです。（著者：念を押して聞くと）そうです。それでお知らせしたくお友達をシラヤマのお使いとして行ってもらったのです」

2000年7月11日8時

「お知らせはまだまだあります。それから（死んでから？）嫌になり、あの山の下で思っていたのです。本当にこのことを人間がわかってくれるか。それでもイシカミの仲間の話が世に出てきたので、お知らせせねばと思っていました。そして学術隊の人にお知らせしたのです。(ロシ

アの学術隊がチベットでピラミッドを発見した）

山の上のピラミッドをオニが知らなかったので、そのまま残っています。その山に登ることを止めていましたが、これからは登ってもらいます。何のものでも（マリモのことなど）人がわかるように私たちが応援しているのです。このことを物語でなく本当のことだということを知らせているのです。

イシカミの働きはすばらしいものだったと星たちにほめられています。涙の物語でした。空の向こうに帰りたいとずーっと思っていました。今はおかげで帰れました。白い山の麓でひたすら待っていました。チベットに平和をもたらせてください。モンゴルの大雪はわかってくれないための涙でした。

これから書いてもらうことはピナツボ火山のことです。なぜあそこで大きな噴火が起きたかというと、ピナツボ火山の下にもイシカミが降りていたのです。そしてそのイシカミがム一の国を作ったのです。そしてその国の王にMの大物が入ったのです。とてつもなく残酷なことばかりしていたのです。それでその近くに降りたイシカミがお知らせしたのです。そして海に沈んだのです。海にはその人たちの霊が残り、争いを起こさせていました。

お友達のピナツボが、あまりに嫌なことばかり起こるのでお知らせしたのです。イシカミの思いをわかってくれないからです。それからおねんねしていましたが、今わかってくれたので射手座に帰れました。これまでのことは全て忘れてください。お終い」

（ムーとはヌー。動物と同じと言う意味です）

3) 古代日本人からのメッセージ

日本古代史でこれまで知らされたあらすじ

アトランティスの血を引く大国主は、東の果てに本当の神の国があると聞かされ、仲間と共に日本へ向かう。道中サマルカンドでヒミコも一緒になり、イシカミの霊や実際にイシカミに助けられ四国にたどり着く。

そこでヤマタイコクを作り、働き者の大国主は農業を発展させ、ヒミコは霊の導きもあり若者たちと文字も作り、幸せな生活をしていた。女性を巡り争いが絶えないために結婚制度を設けたことと、働くのをいやがり出した若者を大国主がしかったため、一部の若者が国から出て行く。そのとき大国主とヒミコの間の子供ニホンタケルノミコト（後にヤマトタケルノミコト）を連れて行く。

そしてある者の国に行き、ヤマタイコクのことを知らせる。ある者は若者に先導させヤマタイコクを攻め、徹底的に跡形もなく焼き滅ぼす。大国主は仲間と出雲に流され、ヒミコは自殺する。ヒミコの娘を除き、ヤマタイコクの国民はオシナマエ（刺青）をつけられ奴隷として連れて行かれる。そして差別され続け、田を開墾させられては取り上げられた。

そのころイソナ（朝鮮）から親善使節が来ていたが、戦

争に巻きこまれ山に逃げ込んでいた。ある者の部下に見つかり、訳を伝えると酒宴に招かれるが、ヤマタイコクを攻め滅ぼしたことを知っていたので殺されてしまう。(ヤマタノオロチの話にすり替える)

出雲に流された大国主と仲間は、そこでもよく働き大きな国にする。しめ縄（髪を束ねた）と鳥居（髪を止める物）を飾りヒミコをｆ思び、杉板にヒミコと成人した娘と息子を描いて思い続けた。（今は描きかえられ形が違う）

ヒミコの娘は母から、星の宮を祭った星原に行くように言われ、供と行く。その前に、ノアの洪水により日本に漂着していたノアの親子（ノア＝何もないという意味で何組かのノアがいた）がその近くにいた。ノアの親子も偶然星原に来ていて出会い、その後海辺のマナイに行く。

ノアの息子とヒミコの娘は一緒になり、一男一女をもうけ幸せに暮らしていたが、またある者がヒミコの娘を連れて行く。そして自殺したり逃げると子供を殺すと脅かされ、ある者の子供を生まされる。ヒミコの娘はマナイに残してきた子供に会い行くが娘は自殺し、息子も行方不明になっていたため自殺する。

生まれた子供はヒミコの娘のお供の者が育てたが、イシカミの物語を教えていたためある者に股を刺されて殺される。（天の橋立はそれで股覗きをする）ヒミコの娘を連れ

て行くとき抵抗したことを元伊勢で、剣の舞や籐祭りとして伝えている。

一方ノアは追放され、金沢あたりで乞食と間違えられ籠に入れられて死ぬ。死ぬ前「私の名前はモーゼ」と言って死ぬ。（エジプトから脱出したモーゼの名前をもらっていた。このあたりに“モーゼの墓”がある）

ノアの息子は籠船に乗せられ海に流されるが、富山に流れ着きしばらく匿（かくま）われ書物をして再びマナイに戻ろうとするが、追われて大江山に逃げ込み殺される。（大江山の鬼退治は後年このことを本当の鬼にすりかえ物語とする）

ノアとノアの息子を殺したことで祟られると困ると思い、それぞれ牛・虎にたとえ「ウシトラのコンジン」という悪神にして封じ込めていた。（大本の出口ナオに降りた）

マナイに五色の玉が伝えられるのは、外国にはいろんな色の人がいることをノアたちが知らせていたため。ちなみに青（緑）はジャングルに呑み込まれて、滅亡した。

ヤマト夕ケルノミコト（これまで知らされているのは、後年同じ名前をつけた人）は、出雲の人は悪い人と教えられ大きくなる。そして出雲の人に、イソナの使節８人の霊が乗り移っているからと８人を殺させられる。後で実の親の家来だったことを知らされ、イシカタヤマ（猿投山）

で自殺する。

異父兄弟の弟＝ニニギノミコトは、四国から来た乳母にイシ物語を教えられ大きくなる。そのことを怒ったある者は、イソナにお詫びを伝えに行かせる。その時ヒミコが作っていた「倭＝イのミズホのホの女」の印に似せた印を持って行ったが、途中志賀島の悪代官に取り上げられる。（「イ」＝イソ＝海に囲まれたと言う意味。イナワ＝日本）その後東北に行かされ、そこで亡くなる。

2000年6月11日

「ヒミコです。ヤマタイコクは始めは山また山の中にありました。遠くから渡って来られたのはなぜかというと、イシカミの手に乗せてもらったので、かなわぬ道も来られたのです。それはなぜかというと、あなたのように霊と話せたからです。

ヤマタイコクに落ち着いたのは、そこには原住民がいなかったからです。感謝の言葉をヨサモテ（霊）に伝えると、星の者からという言葉が聞こえ出したのです。そしてお知らせの言うとおりにしていると、いつの間にか人が集まり大きな国になって行きました。

文字はなぜホツマ文字とカタカナの２つを作ったかというと、仲間の言葉からでした。ホツマ文字は以前言った

ように、ミズホの妻が作ったという意味でした。主に星から知らされた形を文字にしました。そして仲間に聞きました。するととても難しく覚えられないと言うので、わかりやすい文字を作ろうということになり、それで力タカナができました。そしてまとめて書くと紙が少なくていいので、漢字を考えました。

このように、あなたが次の物語を完成させるのに若者の意見を聞いたように、私も文字を作るのに若者の意見を聞いて作ったということを伝えたかったのです」

2000 年 4 月 15 日

「ヒミコの主な仕事は、朝起きるとまず太陽に向かってお祈りをし、太陽神とお話をしたのです。私（ヒミコ）はあまり人の上に立つのが好きでなかったので、お祈りが済むと女の人に織物の指導をしたり糸を紡いだりしていました」

2000 年 6 月 1 日

「“ おこし物 ” は星の言葉です。本物を取り出すという意味です。形を作った砂浜に焼けた鉄を流し込み、それをお水で冷やして本物の物だけを取り出します。これが大人がするおこし物です。子供がするのが尾張地方に伝わるお菓子のおこしものです。“ おこし物 ” とは、外国から来た方が伝えてくれたものという意味です」

日本人が英語が苦手なのは、日本語は高周波の音がないからということを TV で聞いた後

「日本語はヒミコが作りましたが、霊からのお知らせをするために言葉ができました。外国語は生きるために必要があって作られたので、はっきりと高い音で言うのです」

「ホツマ文字もヒミコが作りました。これは一人で作りました。目をつむるといろいろな形が現れたのです。それはイシカミが見せてくれたそうです。それからこれでは意味がわかりにくいと、皆で力タカナを考えたのです。始めは書く物がなくあまり面白くないのですが、落とし物に書きました。なぜ面白くないかというと、持って帰ることができないからです。それで何とか紙という物を考えたのです。

紙は白くはなりませんでしたが、どうして作ったかというと、ここの人は始め着る物を山の木の皮を細かくさいて布を編んでいました。そしてその布を洗うと溶けるものがあり、乾くといわゆる紙になったので、それから紙を作りました。糸は山蚕ゃオニ知らずという干した木の皮を、これからお話する麻の糸で織りました」

2000年6月3日3時

「一つでも思い出したことをお伝えしたいと思いました。ヒミコです。紙という字です。紙は糸で編んだ服の古着から出てくると言いましたね。糸を作ることは子供の仕事でした。身体を折ってムリをして小さな子供が糸を作りました。糸を煮たりして（？）その水を乾かすと紙になりました。その紙は貴重なもので、矛をしまう建物の中にしまったので「紙」という字になりました」

2000年5月17日7時

「漢字もヒミコが作りました。それでも見つかったときに全て持って行かれました。紙はこうぞで作っていました。私の物語はうそではありません。イナワとイソナは途中の島が大きくて船で簡単に行き来できました。イソナの人に言葉を教えました。

私が来たとき、岩（落し物）が柔らかかったのを覚えています。それからお知らせに困らないように、代わりの者にもお知らせが霊の教えだということを伝えていました。それでオシナマエをつけられ、霊が悪さをすると言わされたのです。

霊がそれまであることを知らなかったのです。今でも映写機のように､そのころの場面が見えます｡このことをもっと知らせてほしいのです。死んでから何千年経っても覚えていることを」

2000 年 5 月 10 日 23 時

「ヒミコです。この物語は終わらないのです。娘からある者においたをされ、それからおこもりのような生活をさせられたと聞いて、かわいそうでなりません。このことを書いてほしいのです。

大国主とお別れしてからのことを、大国主から詳しく教えてもらっています。それほど“思い”が残ることをお知らせに降りてきました。大国主が私のことを思ってくれ、あの杉板に絵を描いてくれたことも知りました。今の絵は大分太っていますが、本当はもっと細い顔に描いたそうです。お知らせはそのことでした。

本当の神は私ですと、始めに名乗りあげたのが大国主で

す。そしてその形はかわいらしい物です。かわいらしい物とは女の髪飾りなのです。長い髪を束ねて刺しておくものです。女の髪飾りで今すぐわかったでしょう。大国主はヒミコを偲んで、彼女こそ日本の国の神様だとお知らせしたかったのです。

しめなわはヒミコが髪を編んでいた形なのです。お話があまり上手でない大国主の代わりに、星の者がお知らせしました。あなたが泣いてくれて、本当だと信じてくれてうれしいと二人が言ってきました。鳥居は神様の悲しみの戦いをわかりやすくした物です。

ヒミコが漢字を作ったのではないと言われていますが、私が作りました。でもどうしても信じてほしいわけではないのです。この本当の物語を世に出しただけでうれしいのです。一言で意味のある、田・男・女など簡単な漢字は男文字と言い、力タカナは女文字と呼んでいました。イソナの人に教えていました。

ノアの息子が大国主に「お父さんなのですね」と言ってきてくれました」

「私は大国主。お知らせしたように、遠くギリシャの町からアマンテアの霊に導かれはるばる大陸を渡り、この地まで来たのには訳があるのです。その昔ヤハウェーが淡い思いを持ち続け、東の果ての国に恋しい人がいると教えら

れました。そして老いることのない食べ物を食べながら、イシカミの手に乗せてもらい山を越しました。イシカミは大陸にもいました。それがチベットなのです」

2000年5月3日0時30分

「大国主がなぜ神の子かというと、アトランティスの血を引くからです（次元が少し違うところにいたのです）。トヨウケは子供のスサノオがあまりに乱暴者だったので、次に子供を作りませんでした。ヤハウェ一はあちこちで子供を作りました。それでも「わしの本当の妻は東の果てにいる」と子供たちにfc;えていました」

2000年5月13日23時30分

「大国主はお終いまで（死ぬまで）お知らせ（病気怪我など）がなく、お元気でした。お元気な身体を持っておられました。それまでお外で働いておられたので、稲作りも上手でした。それからお城も造られました。そのころある者が出雲に来ましたが､なんとしてもやられたくないので､一番上の席をある者に用意したのです（下手に出た）。それから大国主の勢力は遠くまで広がりました。生きているうちに大きな国になりました。

桃太郎は大国主なのです。オニはわかりますね。岡山は

ヤマタイコクのときから関係がありました。滅ぼされたことを知らされていたのです。お知らせ（病気など）がなく、亡くなるまで元気に働くことができました。私のことを伝えることができて、うれしいです。

出雲の巨大遺跡は大国主が霊として導きました。何としてもヤマトより大きなものを作るように。このことを知ってもらうために、あの遺跡を探してもらったのです。（最近出雲で21mの建物があったという柱が見つかった）あなたに気づいてもらうために、あの大きな音をヤマタイコクの霊が一丸となって出したのです」（著者：岡山駅で私たち夫婦のみものすごい音を聞いたことあり）

2000年7月17日夜中

突然

「それは船の目印だったのです。当時は船で交流がなされていました。道がなく困難だったから、灯台の役目をしていたのです。（出雲の巨大遺跡のこと）」

2000年4月30日早朝

「星の者です。新緑の季節になりましたね。大国主様が降りたいと言われています。書いてくれますか？」

「降りてきました。名前は大国主（おおくにぬし）とい

うのは良くないと言われました。それで「大黒様」と呼ばれるようになったのです。私が忘れられないのはお知らせしましたね。妻ヒミコと娘と息子のことなのです。お決まりのことで学びのことでもありました。この物語の本当のことは、オニがいなくならないとわかってもらえません。オニは今も地球にいてお知らせしているのです（霊界にはいない）。私の物語をします。

私がヤマタイコクを追われてから、出雲に住み着きました。流れ者でしたが、出雲の人は歓迎してくれました。私も働いて田を広げました。並大抵ではありませんでした。仲間の人がお城を造ってくれました。それから別れた子供の所に行こうと、おなじみの白い袋にお鏡もちを入れ、あのにっくき者のところに行ったのです。

わたしは何度も生まれ変わり、お城を造りました。お城がなぜ造られたかというと、ヤマタイコクのことを皆に知ってもらいたかったからです。大きな柱は、このこと（ヤマタイコクを忘れないこと）を忘れないようにするために、あのように大きな建物を建てたのです。追い出されてから、出雲ではとても大切にしてくれました。いろんな物をあけました。

星の方が言うように言われました。本に書いてほしいのです。今ではヒミコたちと同じ星にいます」

2000年7月5日23時

「まだまだお知らせがありました。仲間のイシカミです。お日様に弱かったのです。太陽光線の当たる昼間は必ず寝てました。そして夜だけ動きました。それでも何日かは生きていました。

お話が長くなりますが、白い山の中にいると何も見えなかったので、落し物を積み上げました。そして力を得ようと思いました。白い山に何人かのイシカミが残されたのです。

私たちイシカミの身体が溶けていくのです。それを見た若者が、故郷の射手座で教えられたピラミッドを作ったのです。それが今現れた山の中のピラミッドです。イシカミの力が蘇るように、たくさんのピラミッドを作りました。

人間の臭いがしました。見ていると仲間がお手に乗せて運んでいました。彼らは海に行きたがっていたからです。何もない砂漠を一人のイシカミでなく何人かのイシカミで、海のそばに人間を置いてやりました。彼らが寝ている間にそーっと土ごと運びました。その土を取ったところが大きな湖になったのです。(砂に埋まって今はない)

ヒミコたちの願いがわかったのです。海というモノがあると男(大国主)が言っていたので、そこに行きたいと思っていたのです。それでお手に乗せたのです。イシカミは、

マナが生えていたので食べましたが、やがてみな死に絶えました」

「ヒミコです。星原には行けませんでした。大国主が東の果てに宇宙の神が祭ってあると聞いていたので東を目指したのです」（寝る）

「ワナワナ……。なかなか亡くなれませんでした。泣いてばかりいました。イシカミです。

それでも人間が何とか海にたどり着けたので四国のイシカミにも連絡しました。（テレパシーで）イシカミの子供でしたので少しは動けました。それで海も簡単に渡れたのです。このことから大国主たちは山や巨石を神と思うようになったのです。

祝詞をあげる前に榊をお供えするのはなぜかというと……。榊はイシカミが弱ったときにこの榊をお供えすることで、言い伝えを守る約束をしたのです。それでその約束を守っているのです。榊はいつまでも驚くほどみずみずしいので、いつまでも言い伝えが続くと思ったのです。色が変わったら取りかえることで言い伝えを忘れないようにするため」

2000 年 5 月 2 日 0 時 30 分

眠れず

「ヒミコです。お知らせがお知らせを呼び、ついにお城の跡があることを知らせて下さり、こんなうれしいことはありません。（四国にヒミコのお城の跡の巨石があると教えてくれた後）

イシの物語をします。落とし物が現れたのは 50 万年前と言われていますが、そんなに古くありません。そのことを言いたくて降りてきました。私がいたときイシカミは死んでいましたが、霊としてお知らせは続いていました」

「おしろいの物語です。顔におしろいを塗ることをなぜ始めたかお知らせします。落とし物の石を粉にして顔に塗ると、女の人がおもらいもの（鉄？）を身体に取り入れることができ、元気になったからです。当時は落とし物を粉にすることが簡単にできました。そしてそれを顔に塗ると、身体がぽかぽかして軽くなったのです。それでおしろいとして使ったのです」

2000年4月14日1時15分

べ、べと言って目が覚める

「紅はおしろいに欠かせない物でした。私はヒミコです。ヒミコの本ができてうれしいので降りてきました。オニはここにはいないので楽しく過ごしています。

人々のお助けになればうれしいです。大国主も楽しく過ごしています。霊たちが壊れ物（怒り・悲しみ）について、私からも伝えてほしいと言われました。お知らせは霊の者たちが相談して知らせるのです。今でもいろいろ語っています。どのようにして知ってもらおうかと神様が作られています。

『情けは人の為ならず』これが一番人間として生きていくときに大切なものと思います。霊の者から見ると、とても大切な思いです」

2000年2月29日23時50分

眠れず

誉れ高き人が降りてきています。

「大国主です。私の探し求めていた物が見つかりました。あの杉板（？）に描かれた人こそ、我が心の妻ヒミコと幼くして別れた娘と息子の晴れ姿なのです。あの絵は宝物として大切にしていましたが、ついにある者に見つかり横取

りされてしまいました。私は必死で探していたのです。あなたがお昼手紙を書いているときに、降りて見つけることができました。私の物なのです。（八重垣神社の絵？）

あなたの物語が知れ渡りますようお祈りしています。

大国主の尊より」

2000年3月6日1時50分

ヒミコの娘より「私もあのように閉じこめられ、子供を生まされたのです。思い出すのが辛かったので、あのように言ったのです」（著者：昨年ヒミコの娘が降りたとき、なぜかそっけなかったこと）

2000年3月9日朝

「悲しい物語です。ヒミコの娘です。必ず可愛い子供を誘拐してきて殺すと、お決まりの暴力を振舞われました。そして押し倒されました。これも言わなければならないと言われたのです。その後、連れて来られてからは涙の毎日でした。逃けると子供が殺されると、私はある者の子供を生まされました。

あなたがなぜ子供を産むまで生きていたのかと思っておられるので、本当のことを伝えるように言われました。

辛い思いがよみがえりました。子供が生まれると、ある者はとても喜んで私をマナイの家に帰してくれたのです。けれども家はなく子供も死んだと聞かされ、私も自殺をしました。お終い。

ヒミコの娘より」

2000年5月15日7時

「置いてきた子供のことが思い出され、毎日泣いていました。新しい子供（ニギハヤヒ）はどうしても好きになれませんでした。その代わりに、四国から連れて来られた女性を乳母にしてもらいました。その女性が石物語をして育ててくれたのです。ニギハヤヒが一歳のとき自殺しました。ヒミコの娘です。

（著者：マナイまで行かれたのですか？）

行きました。今でも思い出します。住んでいた所にはいませんでした。娘は自殺したと、また息子は殺されたと聞きました。命掛けで戻りました。そして三輪山の大きな石の所で死にました。これがヒミコの娘の物語です。私の名前もヒミコと言いました」

2000年5月15日8時

「石物語をお伝えしたのはこの私です。ヒミコ様のお子様（ニギハヤヒ）（著者：良いにおいがする、ヒミコより）を私が御育てしました。

ニニギ＝音信不通。ニギハヤヒはお出かけになり生きておられるかわからなく、祈りの儀式をいつもしていました。ニニ＝今いずこ。ギ＝疑問」

2000年5月16日

「ニギハヤヒトニニギのミコトです。呼ばれませんでしたので降りてきませんでした。ニニギノミコトと呼ばれた者です。私が知らされたのは、出雲の人は悪い人と言われて育ちました。イニシエよりイソナの人の物語を伝えられ、出雲の人がイソナの人を殺したので、霊にとりつかれていると聞いておりました。

私ニニギノミコトはイナワの人でした。石物語を伝えようとしたら、言わないように言われました。父はある者、母はヒミコの娘、涙の母でした。一人の人を好きになりました。その人が石の物語を知らせてくれました。その人は平民（？）の人でした。怒った父は、私をひどい目にあわせました。それは異国に遣いに行くことでした。私は大勢の供と共にイソナに行くために、あの倭の印を持っていっ

たのです。私の仕事はうまくいったので、お父さんは切らずに生かしてくれました。

シガの島（？）から印が出てきたのは、そこの悪代官が印を取り上げたのです。倭の国の印をイソナに持っていこうとしたのに、イソナの人にお気の毒なこと（8 人の使節を殺したこと）をしたので、イソナの人にお詫びに行ったのです。お知らせはこれでおしまいです」

（著者：みっしと大きな音がして「本当の意味です」と）

2000 年 5 月 19 日

「あなたの気持ちがうれしいのです。ヒミコです。あなたが一生懸命、私たちのことを話してくださってありがとう。言葉の意味も仲間で考えました。あなたが幸せになれてうれしいです。

ヒミコが倭の印（？、字？）を作っていました。それが私の物語を現しています。イナワのイとミズホのホの女ということを現しているのです。

ヒミコより」

2000 年 6 月 16 日 19 時 15 分

皇太后死去

「スサノオの霊が入った者が、ある者なのです（ある者は土着の人間)。わがままで乱暴者で皮を剥いだり、汚物をばら撒いたのがある者なのです。半霊体（？）のアマテル、アマテラスの子供がスサノオでした。そして降りてきたリュウジンがスサノオに入ったのです。イシ物語の学びでした。

一人の者が降りてきました。ある者です。ある者にスサノオの霊が入ったと言ったのです。それを人に知られるのが嫌なのでスサノオという神にして、最後は良い人になったという物語にしたのです。それから乱暴者でも慕われる人になったのです。ニニギの命の乳母のあそこに刀を刺して殺したのも、ある者なのです（乳母はヒミコの娘についてきた人)。それであの空を見るのに股覗きをして、空を見るのです。

神が別れているということは、ある者に引き裂かれたヒミコの娘とノアの息子のことなのです。二人を偲んで物語を作ったのです。(天の橋立では股覗きをして空を見ると、橋立が天と地をつなぎ神が出あうという言い伝えがあります)

2000 年 7 月 25 日

ヤソコイ物語、と言って目が覚める

「ノアの息子です。私はヤソ＝ヨソの人と言われていました。ヒミコの娘に会ったのは、星原のイシの物（ストーンサークル）の所でした。仲間と一緒で、怖い人 (ニニギノ乳母）といました。仲間の人は何の真似か、イレズミをしていました。娘は私を見て驚いていました。怖い人はお叱りのようでした。でも何もせず、イシの前でお祈りをしていました。何個ものイシが丸く並べてあり、真中に大きなイシがありました。

なぜそこに私が行ったかというと、人々が連れて行ってくれたのです。食べ物を恵んでもらえる所だと言われ、それでついて来たのです。そこでヒミコの娘と恋に落ちました。それはうれしいことでした。何か哀れを誘う人でした。悪人が娘に悪さをしたので私が守りました。すると怖い人もやさしくなりました。お金をもらわなくてもいろんなことを教えていましたので、皆に信頼されました。

ヤソの者は、「おー」とよく言いました。

お金＝オーカメ＝カメの背中の物がお金の代わりだった。

ホーセキ＝オーセキ＝宝石（？）。

ヤソの人と慕われたのは、お城を作ったからです。そこの人は小さな家しか造りませんでした。私と娘は相談して木を切るオノを作り、皆に教えました。そのために砂のたくさんある海辺で、まず砂を焼いて固まった物を集めて斧の形を作り､固まった物をそこに入れて木を燃やしました。ユダヤではすでに作っていたからです。

オーノー＝斧はヤソの言葉です。お探しの四つ星は私が描いたのです。（著者：以前星の宮神社の旗は 4 つ星が描いてあるはずと言われたが、七つ星になっていた）それをある者が持っていったのです。これからおとなしく休みます。オニのようになり、ナオに降りて迷惑をかけました。今は娘と一緒にいます。ヤソコイ物語で愛の物語だったのです」

2000 年 4 月 29 日

突然目が覚め「波間の……」と言っている

「ノアというユダヤ人です。思い出したことがあるので必ず書いてください。ノアも今では仲間と一緒の星にいます。学びのことを申します。

私は今は幸せなのですが、あまりにも悲しい最後でした。それを思い出したのです。それは金沢まで歩いて逃げたのです。おもらい物を食べ、波路の袖（砂浜）を歩いて

北に向かいました。悲しくて悲しくて泣きながら北に向かいました。それはいわゆるお乞食の旅でした。

（石川県に入り）私を知る人がいなくなり惜しまれることがなくなったのです。私を見ると追いかけてきて、お仕置きをされました。それから籠に入れられ、生意気にもお城に連れて行かれました。それはたまらなく悲しいことでした。オニの者が仲間と一緒に、私の名前を言うようにいじめたのです。私は本当の名前がノアでなく「モーゼ」といったので、そのように言いました。(エジプトからユダヤ人を連れてきたモーゼではなく、その人の名前をもらっていたのです)

籠に入れられたまま、なかなか死ぬことができませんでした。「名前はモーゼ」と泣きながら何回も言いました。それでお情けにも、死んだ後そこに埋められたのです。悲しみが止まりません。あなたにお知らせして多くの霊に慰められています。これが私の物語です。ノアがモーゼのお墓になった物語です」

2000年3月15日4時

眠れず「勝ってくるぞと勇ましく一…」と歌が出てくる

訳を聞くと、たくさんの戦死者が降りて話したいと言ってきています。と、その一人です。

「私は今、記憶がとてもはっきりしてきましたのでお知らせします。名前はノモトと申します。1等兵でした（はじめは2等兵）。私が故郷を離れるとき、我が子は5人いました。そして妻は亡くなっていたのです。子供たちは私の母（祖母）に育ててもらっていました。40歳でした。故郷を離れて連れて行かれた所が……でした。

子供のことが思い出され、私は泣いてばかりいました。そのうち一人の人が「今日から私が仲間です」と言ってきました。その人が教えてくれたことは、我々日本軍がなぜここに来たかということでした。えらい人が日本軍は神国の軍隊なのでどこを侵略しても許されると言われた、ということを聞きました。そして必ず勝つのでおおいにがんばってほしいと伝えられた、とも。

そして私は、その人と夜中にある仕事を言いつけられました。それは鉄道をなぜか爆破するためにダイナマイトを仕掛ける仕事でした。その仕事をしたら家に帰れると言われたので、うれしくて何も考えずにその人についていきました。彼は何でも知っていました。とても長い線路を歩き、川のそばに来ました。その間彼は何も話しませんでした。私は物を運ぶためにこの仕事をさせられたと思いました。何も考えず家に帰れることばかり思っていました。彼は鉄橋に登りました。ダイナマイトを針金で何本もくくりつけ

ました。そして導管（？）を離れたところまで引っ張ってきました。私は導管の予備を持ち見ていました。

それから彼は何も言わずに私をめがけてピストルを撃ってきたのです。私はその場で倒れました。そして川に引きずり入れられました。そして霊として見ていると、その人は導管に火をつけ、しばらくすると大きな爆発がして橋が壊されました。他に人は誰もいませんでした。今そのことを思い出したので、降りて伝えるように星の方に言われ降りてきました。子供たちも何とか大きくなりました。霊として帰り見守っていました。今でも指示したえらい人があがめられているのが嫌なのです」

「猪苗代湖の神と呼ばれる者です。人身御供にされた者です。あなたの言葉の一つに加えてほしいのです。私は貧しい農家の娘でした。ある年、雨がほとんど降らなく田植えができなかったとき、私は無理矢理猪苗代湖の人身御供にされたのです。私が嫌だと言っても国の殿様がどうしても湖に入れと言われたのです。仕方なく湖に入りましたが、すぐに気を失いました。それから何も覚えていないのですが、今蘇ったのです。

私のようにされた人がとてもたくさん昔はいました。

それは龍神のせいなのです。龍神のために犠牲になった人が今、皆団結してお話を書いてもらおうと、あなたにお願いをしに降りてきました」

「ワシはワニサブロウだ。久しぶりだ。この世界に降りたい。わしの言葉をようやく取り次いでくれるものがいた。その方と連絡できたことは、まことにうれしい。わしが降りる者は、おまえが知らせたことを信じてくれる。星の者からわしに下りるように言われた。これで苦労をなくしてやる。ワシは霊界で幸せに過ごしている。降りておまえを助けてやりたい。これからは皆の者が助けてくれるだろう。

ワニサブロウより」

4) イエスたちからのメッセージ

イエス・マホメット関係でこれまで知らされたあらすじ

イエスは 10 代の頃インド人の手伝いをし、インドまで行っていた。そして港でマホメットと出会い友達となる。

大人になり石大工をしていたが、父ヨハネが酒乱で母マリアに夜毎暴力を振るうため外に出て星を眺めていた。そして突然神と名乗る存在に強力な奇跡を起こす力を与えられる。そしてその存在は、イエスの思いとは違う荒々しい言葉や動作も起こさせる存在でもあった。

母マリアはやさしく孤児を育てていた。その中にエマとノマの姉妹やイタリアの富豪の子供、バーソロミューという迷子も一緒に育てられた。

イエスのやさしさと奇跡を起こすことができることで、多くの人が集まってきて弟子も増えてきたため問題も起こった。団体生活ではいろいろのもめごとも起こり、イエスは父母の関係を見ているため男女の関係を厳しく禁止した。弟子たちはそれを不満に思っていたが、ユダたけは母が妾（めかけ）であったためイエスの意見を理解していた。

マナミはマリアの手伝いをしていたが、女にも喜びがあるとイエスに教え子供をもうける。孤児のエマもイエスに好意を持っていたが、いなされたのにマナミとは関係を持ったことに嫉妬し、奉公先のパリサイ人の主人に「イエ

スがユダヤの王だと言っている」とうそをつく。

パリサイ人はその噂をユダヤ人の間で広めさせる。そのうえイエスはヤハウェ一でなく違う神の存在や、輪廻転生を皆に話していたため反感をかいついに磔（はりつけ）にされる。

その前に父ヨハネは足の怪我でいらいらし、マリアを蹴飛ばし死に至らせる。マリアは霊となって十字架上のイエスに気絶したようにさせ、東の果ての日本に行くように告げる。ロ一マ兵士はイエスが気絶し雷がなったため怖くなり、ちょっとつついただけで逃げ去る。

イエスは死んだと思われたが、傷は浅く知り合いのインド人にアーユールベ一ダの医療で治してもらう。弟とユダは、イエスの傷が治るまでマナミの所で匿（かくま）う。

元気になったイエスは、弟とユダと親交のあったインド人と供に夜中に脱出をする。

ユダとインド人は途中インドで別れ、イエスと弟・船頭の３人で日本の東北に上陸する。弟はそこに残り結婚して一男三女をもうける。

注）（東北にヘブライ語の歌や風習が残っている。キリストの墓と言われるものもある。長髄ひこ（＝外人）の言い伝えがある）

イエスはイスキリと名乗り、病気を治しながら南下して

大阪の石切に落ち着く。

皆の信望を集めていたがノアの親子の話を聞こうと、たくさんのお土産を持って出雲に出かけたが追いはぎに会う。（いなばの白ウサギはイエス）

石切で養子を迎え、穏やかな最後を迎える。（長髄ひこを祭った神社がある？）

イエスの養子は宮廷で仕えていたが、イエスの教えを良く守り人望を集め、ついには選挙の形で天皇になる＝仁徳天皇。お墓（前方後円墳）はギリシャ文字の最後の文字オームΩを形取って作ってもらう。（東北にも小さいが同じ形の墓がある）

マホメットは裕福な船主の子供であり、とても穏やかな人であった。少年時代、港でインドについて行くイエスと出会い、同じ傷があるということで友達であった。

やさしい二人はいつも世の中はどうすれば平和になるか話していたという。

「目には目を」ということは「見て鑑賞する物をもらったら見て楽しむ物を」、「歯には歯を」は「食べる物をもらったら食べる物を」それぞれお返ししなさいという意味で、もらいっぱなしはいけないということを言っていた。

ある時、イエスが追われているので船が欲しいと言ったので、やさしいマホメットは独断で船を譲った。このこと

で責められ殺される。その息子ムハメットはその敵に育てられたため、厳しい人となり「目には目を、歯には歯を」ということも全く反対のこととして教えられて育つ。父を殺されたのはキリスト教徒と教えられたため、キリスト教徒を敵と思いこんでいた。

息子は周りの者にいつも命を狙われていたため、とても猜疑心が強く育っていった。

たった一人愛していた妹を敵に殺されるのを心配して、ベールで顔を隠すようにさせていたが、その妹すら疑いを持ち目を刺す。

宇宙（太陽）に感謝する気持ちが強く、このことはとても立派なことと言われている。ただ「目には目を、歯には歯を」という意味が、違った解釈で復讐をするように伝えられていることが間違いである。また「食べ過ぎはいけないので時々お腹を空にするとよいだけで、断食の強制はしていない。お祈りもその心を持てば良いことである」ということを伝えたいと降りてくる。

2000年6月9日

「イエスは星からエネルギーをもらうまで、お父さんの元で石大工をしておりました。大きな岩をノミで削っては家の元を造っていました。それはとても力のいる仕事でした。そして家に帰ると父親が酒乱姿で待っていたのです。

毎日毎日石の粉にまみれて石が割れるまで力一杯叩いていました。何の楽しみもありませんでした。そして夜には嫌なものを見るのです。母を力ずくで押し倒す父をとても嫌悪しました。それで夜に外に出て星を見ていたのです。そして乗り移られたのです。そして強烈な快感とともに声を聞いたのです。「私が神だ」と。そして癒しの手をもらったのです。手を当てるだけで病気が治るというエネルギーをもらったのです。後は聖書に書いてあるとおりです。

イスキアのヨハネとはイエスの父でした。イスキリはイスキアから来ていますが、石を切ることもできたので、石きり＝石切になりました」

2000年3月17日

「アーメンとは“長生きしなさい”という意味で私が言いました。病人に言いました。なぜなら今は長生きできますが、その当時はとても若くこの世に未練を残しながら死んでいったのです。私は未練を残しながら死ぬことほど

辛いことはないと思ったのです。霊界があり生まれ変われるのに……。でも生きている間、人にはそう言いながら100% 信じていなかったのですね。矛盾していますね。長生きしなさいとは。早く本を出してください。

イエスより」

1999 年 2 月 27 日

「教会の建物の先が高く尖っているのは、あの先に神が降りてくるのではないかと、高く尖ったものにしたのです。

マリアより」

2000 年 4 月 5 日 1 時 30 分

「北へ行く人が増えました。あなたも来てください。東北のユダヤ人の風習のあるところへこれから仲間が降りたいと言っています。サナンダです。(著者:左手の指が痛い)仲間のそばに降りることにしました。私は何をお知らせしたいかというと、私の子孫が残っていることがわかり、うれしいのです。私が命の物語を一生懸命知らせておいたことが、まだ残っていることがうれしく思いました

イエスの弟のサナンダより」

2000年2月24日2時30分

あちこち痒くて眠れず

「学びの者ペテロです。変わらぬ愛の星の宮から降りて話すようにと言われましたので書いてください。並の物語ではありません。悲しみが止まりません。

南に向かう途中に黄金の物を預けられました。それが間違いの元でした。その黄金を持たされて考えが変わったのです。イエス様の元を去ろうと思ったのです。パウロと共に独立してイエス様から別れようとしたのです。その黄金はイタリアのバーソロミューの物でした。バーソロミューのお父さんが連れ戻しに来て、渡してくれた物でした。

その頃バーソロミューはイエス様のそばでお手伝いをしていて、そこにいませんでした。私とパウロは黄金を隠して去ろうと思ったのです。それからしばらくしてイエス様が捕まりました。私たちはなにくわぬ顔をして元に戻りました。けれどもイエス様の遺体がなくなり、やはり神の子だったと思いそれからは真面目になりました。黄金は教会を建てるために使いました。

これがペテロとパウロの物語です。お話することで他の霊から見捨てられることがなくなりました。これまでは降りて伝えさせてもらえませんでした」

2000年2月25日7時45分

右手の1点に刺激あり

「本書きの人です。このことを追加して書いてほしいのです。イエスの遺体がなくなり神の子だと思ったので、これからどうして生きていこうかパウロと話し合いました。(著者：イエス様とはどうしても発音しない)

私たちはあまりイエスを信じてはいなかったのです。

ここにいればご飯が食べられるので、黙って家族のようにしていたのです。それなのにマリアはとても優しくしてくれました。それでイエスが正しかったことを記録して伝えようと思ったのです。これまでイエスが話していたことを思い出し、神の子イエスの言葉として書き留めたのです。そうすることでこれまでのお礼をしようと思ったのです。

ペテロとパウロのPはパリサイ人のPなのです。なぜイエス様と言わなかったかというと、わかるでしょう。(著者：私が様をつけていた) 私たちがなぜイエスの元にいたかというと、当時のパリサイ人の政をしていた人からイエスを見張れと言われたからなのです。

（罪を犯していた償いに）わかりましたか？　それで今まで真実を伝えに降ろさせてもらえなかったのですが、優しい星の宮が星に頼んでくれたのです。

これから私たちは仲間に許しを乞いに行き、イエス様に取り次いでもらおうと思っています。（著者：右手の平が強く痛むがしばらくして治る）この手の平の痛みが本当のことだという証拠です。それから、若いバーソロミューの友達のルカにひどいお仕置きをしたことも許してください。」

「イエスです。何も知らない方が良かったけれど、本当の言葉を伝えてくれたので恨んでいません」

2000年3月14日13時

イタリアの子供で名前の知らない人が来ています。と伝えられる。

「バーソロミューですか？」の問いに、

「そうです。バーソロミューが思い出したことをお伝えします。それはイエス様がイタリアにも行かれたということです。イエス様と何人かで行きました。私の住んでいたローマに行きました。イエス様は一日中何軒も何軒も、私を知らないかと聞いてくれました。そしてそこが、あのアッシジだったのです。私は仲間にここに住んでいたと言いま

した。何も知らないイエス様はそこにたくさんのお金を寄付してくださいました。

(著者：イエス様が行かれたの？)

そうです。イエス様が行かれました。アッシジにいましたが、誰も名乗り出てくれないので、またイスラエルに帰りました。イエス様がなぜアッシジのフランチェスコに霊として降りられたかというと、「知らない人が一生懸命私の教えを広めてくれていたからです」と言われました。

このことをイエス様と話していたら思い出したので降りてきました。イエス様はそれほど（イタリアまで来て親を捜してくれる）お優しい方でした。これからは今の言葉が広まりますようにお祈りします。

バーソロミユーより」

2000年3月6日1時50分

痒くて目が覚める。問うと

「ノマ、ノマ」と言葉が出てくる。

「ノマもいました。まだ明けやらぬ朝早く、イエス様の所からあのマナミが出てくるのを見たのです。私ノマはエマトの妹でした。私は子供でしたのであまりイエス様のことはわらなかったのですが、エマトはいつもイエス様の話をしていました。そしてこの日の朝、私はなぜかエマトに

起こされたのです。そしてマナミがイエス様の所から出てくるのを見させられたのです。イエス様は一人で違う部屋で寝ておられました。

私たち姉妹は親に見捨てられ、マリアに育てられました。それでイエス様とは兄妹のような間柄でした。それでイエス様は姉を優しく拒まれたのだと思います。本当にイエス様はやさしく、一生懸命病人の世話をしておられました。

私の物語を降りてするように星の方に言われましたので降りました。降りてお知らせしようと思ったのにお知らせがわらなかったようなので、星の方が痒くしてくれたのです。

お終い。ノマより」

2000 年 3 月 14 日 21 時 30 分

お風呂の中で左手が痛い

「はかない命でした。ナレニアのマナミです。あなたのおかげで、私がイエス様の子供を産んだことが世に知らされうれしく思います。星の方から降りて告げるように言われましたので、思い出したことをお知らせいたします。

私が思い出したこととは、仲間の人から隠れるようにして暮らしていたことです。日毎に大きくなるお腹になった

私に変わらぬ態度で接してくれる人は、誰一人としていませんでした。イエス様も素知らぬ顔で私を避けられるようになりました。それが一番悲しいことでした。仕方がないのでナレニアに帰り、子供が生まれるのを待ちました。

お別れするとき、イエス様とマリア様はたくさんのお金をくださいました。そして「このことは内緒にしてね」と言われました。たくさんいただいたお金は子買いの人に子供とともに渡しました。そうするほか当時は生きていけなかったのです。このときの辛い思い出を断ち切ることはできませんでした。

子供がいなくなり、またイエス様の所に戻りましたが、すぐにイエス様は磔（はりつけ）になり、私も捕らわれました。エマが私にこう言いました。「あなたのイエスが私を振ったから。あなたも同罪ね」エマは美しい顔をして言いました。

それから私はコロッセオに連れて行かれました。その後、霊として私の赤ちゃんについて守りました。赤ちゃんはお知らせしたようにポーランドの方にもらわれていきました。それからはあまりわかりません。お知らせはそれだけです。エマと妹が謝りに来ました。

マナミ」

2000年2月3日朝

「ナレニアのマナミです。ユダのお母さんが私の友達でした。コロッセオには一緒に入れられました。私もユダヤ人でした。私の赤ちゃんはイスキア人に預けましたが、死んだあと霊として見守っていました。そして子供がポーランドに連れて行かれたのを思い出しました。去年お伝えしたことと同じです。(ポーランド系ユダヤ人に初めて出合った時、とても泣けた事あり、) それで泣けてきたのです」

1999年6月11日

「私はソフィヤと言い、ナポリに住んでいました。ポンペイは噴火で埋まったので嫌われました。女の子でした。お母さんがイスラエルからまだ戻って来ないのです。ネロの暴君にさらわれたのです。お母さんはクリスチヤンでした。

物語の始めから話すと、暴君ネロの元では生きていけないので、私たちはナポリに来たのです。それでも泊まる所がなく、仕方なく道ばたで寝ていました。するとローマ兵が来て「おまえたちはユダヤ人だろう」と言って、生まれたままの姿にさせられました。私はまだ2歳だったのでかまわないけど、みな裸にされ連れて行かれました。ローマにです。そしてあちこちにドレイとして売られて行くの

です。私は一人になり裸のまま泣いていると、誰かが家に連れて行ってくれました。それから私は泣いてばかりいました。

しばらくして山の方から何かが降ってきました。大きな石でした。私と代わりのお母さんは逃げ出しました。ベスビオス火山ではなく別の火山が、噴火したのです。その時はたいした噴火はしなかったので家に帰りました。

仲良しのお友達と遊んでいるとき、とても大きな音がして空が真っ赤だなと思ったとたんに気を失いました。これからは霊が見たことです。空一杯に煙や灰と一緒に大きな石が舞い上がり落ちてきました。あっという間に川のような流れが来てナポリの町は埋め尽くされました。

あなたの元に来れたので「これはほんの一部の物語です」と言いなさいと白色星団に言われました。私の物語はたまらなく悲しいのでこれまでとします。ここではお母さんと一緒です。お母さんと代わります」

「ソフィヤの母で 21 歳でした。名前はソーニアでした。親も夫もいませんでしたが、誰かに暴力で犯されソフィヤを産みました。そして、イネリアのイエスに惹かれクリスチャンになりました。なぜ惹かれたかというと、クリスチャンの人は誰もかれも優しかったからです。それでイエスの元に行こうと思ったのです。子供の物も食べる物も何もなかったので、子供は大きな家の前に置いてきました。それから私はお情けを乞いながらイスラエルに向かったのです。お情けにいつまでもすがれず、途中で亡くなりました。」

2000 年 3 月 14 日 2 時

腕がしびれて目が覚める。いつもは耳が痒くなるだけで目が覚めるのに起きなかったからと

「次の言葉を書いてください。

“ いさご ” という言葉を、違う言葉でお知らせします。

山のゴミ（不法投棄のゴミ）が言っています。『私たちを見捨てないで。みんなのために働いてきたのに』

この考えを持ってほしい」

2000年3月14日13時

この間から「いさご」を違う言葉で知らせると何回か言われていた。

「いさごをイスラエルの言葉でお伝えします。

スレントン（いさご）きらめく（ペリカエ）星（アナスー）物語（セレニー）

私はイスラエルの王様でした。そして今、敵に追われています。敵とはエジプトの人です。私の名前はショルノです。私は今包囲されました。港に作られたお城です。そのお城まで逃げてきましたが、追いかけて来られました。エジプトの王様はとても大きな人です。お城が燃えました。私は本当に悪いことをしたと思いました。自分たちのことを「神の子」と思い、エジプトを攻めたのです。そのことがユダヤ人の悲劇を招きました。これからは世界平和のために働いてください。

私はユダヤの初代国王ショルノでした」

ショルノがお伝えしたことは「ユダヤ人は神のヤハウェ一の子孫なので、他の民族を征服しても良いと思ったことでした。そうです。日本と同じことを何千年も前にしていたのです」

2000年3月20日朝

「ワナ、ワナ、ワナ……」と泣き声がなかなか止まらない

「ヤハウェ一です。星より降りて伝えるように言われました。ユダヤ人だけが何も神の子ではない。それなのに、なすべきこともせず聖書ばかり読んでいるのは、どうしたことか？元気な者が働かず、お髭をはやして（?）形だけの祈りは意味がない。なすべき仕事をして夕べに感謝の祈りをするだけで充分なのに。これらのことを彼らに伝えてください。怒りの物語でした。

ヤハウェ一より」

2000年2月8日4時

「釈迦と佛陀は双子の兄弟でした。兄釈迦は明るく自由奔放に生きていましたが、弟の佛陀は元気ではありませんでした。それでヨガを習いに行ったのですが、前述したように、一人で修行していて宇宙の存在に支配され、病気を治すなどの超能力をもらったのです。その噂を聞いてあちこちから人が来ましたが、晩年はあまり力もなくなり、インドでは楽しく生きている釈迦＝シバ神の方が有名になったのです。

『空即是色（識）＝そらから教えられることがある、という意味。色即是空＝色も空から来る？』これが佛陀の悟っ

た一番大きなことです。五感以外を大切に思うのは他の先住民族も知っていた」

2000年3月23日5時

右手が痛い

「私は星の者ではありません。イエスです。私もようやく星に行けました。どういう星かというと、今頃いないような人がいます（修道士？）。代われるものなら代わりたいのですが、代われないのです（今救世主として世に出たいということ）。

ユダヤ人の皆さんは、精神的なものを求めるようにしてください。止まらない物への執着を断ち切るように、これからは生きてください。

これまでは星でなく、イスラエルの者たち（ユダヤ人）のいる所にいました。とても大変だったと皆は知らせてくれました。オニはいません。今こそ世界の人たちは手をつないで、平和な地球を作ってほしいのです。星から言うように言われました。

イエス　イネリアより」

イエスより思い出しましたのでノートに書いてください。

「イシキリ神社の横のお墓に私の名前が書いてあります。（著者：霊界で現実にはないと思う）石きりをする人と漢字で書いてあります。私の名前はイスキリと言っていました。私は弱って皆に世話を受け、死にました。私は今それを思い出したのです。石だけあるのです。

命がひとつなくなりました。Mに支配された人を見破り構えたのですが、Mにやられたのです。悪いMが勝ったのです。その人は見なれぬ者を見破ったのです。霊の道に達していたからです。その人は鎧の姿をしています。仁徳天皇の生まれ変わりだそうです。仁徳天皇は良い人でした。読み人知らずの歌を読んだ人です。思い出したのはそれだけです」

今、仁徳天皇がここに来ています。なぜ天皇になったか思い出したそうです。

「私が仁徳天皇と呼ばれた者です。私のもともとの家はイネリアのイエスの末裔なのです。天皇の後継ぎが途絶えて血のつながりのない人ばかりになってしまい、皆で相談した結果、選挙の形で選ばれました。イエスの子孫ではないのですが、イネリアのイエスの養子になった人の子孫になるのです。イネリアのイエスの面倒を見ていたので、それで養子にしてもらえたのです」

2000 年 4 月 8 日

「七夕は仁徳天皇が始めました。とてもたくさんの贈り物をもらい、そのお返しをするために、もらった人の名前を書き笹にぶら下げていたです。お返しをしたら燃やしました。キリストの教えを守っていたため、もらい物をしたら必ずお返しをするというマホメットの思いがあったのです」

2000 年 6 月 26 日

「“ 久方の光のどけき春の日にしずごころなく春のちるらん ”

この歌は私が作りました。私はイシの物語を信じる者です。今祈りの人です。星のことを信じていた仁徳天皇です。「しずごころなく」はある者のしたことを伝え聞きましたので、そのことを思い作りました」

2000 年 3 月 9 日 1 時 30 分

口が動いていて目が覚める

「思い出したので書いてください。私は仁徳天皇と呼ばれた者です。私がなぜあのように大きなお墓にしてもらえたかお話します。

私はおひまだったので、御所からお外へ散歩に行こうと

思いました。すると牛車の向こうから、何人かが刀を持って私に斬りかかったのです。なぜ殺されなければならないか、わかりませんでした。当時は国民も戦争がなく幸せに暮らしていたと思います。そして私は亡くなりました。私は常々イスキリの話をしていましたので、お墓の形はオームΩの形にしてほしいと言っていました。金持ちの者が仲間と打ち合わせて私のお墓を作ってくれました。そして石室の中に、私がイスキリの養子であることを証明する言葉が書いてあるのです。

仁徳天皇の話は本当なのです。あのお墓はギリシャ文字のオームΩを形どったものなのです」

2000年3月16日

口が動いて目が覚める

「私はホモライト（？）。ホニライの国の者でした。ただ今記憶が戻ってまいりましたのでお知らせします。

若い女でした。ムハメットの妹です。モナムーと呼ばれていました。今思い出したことは、お友達を殺されたことです。それから私は目を刺され殺されたと以前申しましたが、そうではなかったのです。悲しくて言えません。（言葉がとぎれる）殺されたのではなく、メシイ（めくら）のまま皆に責められながら、地獄のような毎日を過こしまし

た。寂しく哀れな物語でした。

私の物語をムハメットは泣きながら聞いています。私が自分（ムハメット）以外の男性を愛したというだけで、このようなことをして何がホニライだと言っています。ホニライとは感謝の意味なのです。勇ましく人をあやめることではありません。そして言葉（コーラン）を言うだけではありません。そして頭を下げることでもありません。ホニライとは全ての人・物に感謝して生きていくことなのです」

「ムハメットの教えを今だに変わりなく伝えられていることに、とても悲しく思います。千何百年も昔、ただ一ｔつの予言「黒い水」のことが当たったというだけで……。地下の黒い水を予言したのには訳があるのです。それは昔私が星の下にいるとき、思い切り気持ちが良くなりました。そして知らされたのです。おまえの物語をすると。そして一人の女がおまえを殺すと。それがモナムーで、男と一緒になり殺すようになると。そしてこのこと（黒い水）を知らせてやるので、それが事実なら女を殺せと。そしてこれからは必ずされたことをやり返せと。ムハメットは仕方なくモナムーの目を刺したのです。

今から思うと、何も可愛い妹をあのようにしなくても良かったのに、悔やんでも悔やみ切れません。あのMが、イスラムの世界を人間の恐怖心を作り出すために教えたのだ

と思います。このことをよく考えて生きてください。

どれほど悲しい思いをしながら生きていたのだろうと思うと、悔やんでも悔やみ切れません。恐ろしい物語でしたが本当のことです。かなわぬことではないのです。星の物語を信じて新しい考えで生きてください。殺し合いを止めてください。女性を解放してあげてください。お願いします。

ムハメットより。お終い」

2000年5月18日1時20分

目が覚める

「思い出しました。ムハメットの妹です。私の物語です。兄に目をつぶされてから、私の周りの人は一斉に私を魔女のように扱いました。私はオニの妹なので、私もオニになりました。あらゆるお知らせに疑いを持ち、星に呪いを持っていました。私のように何もかもうまく行かなくても、必ず星の皆様が助けてくださいますので、お知らせを信じてください。

これがムハメットの妹からでした」

本の内容でイエスとマホメットが同じ年代というのが、現実には 500 年ずれがあるのはなぜかという質問に対して

「それは本にお伝えしたことが本当です。そしてイスラム教のムハマイドは、ムハメットの霊が降りてお伝えしたのです。それを巻物に書いて皆に命令したのです」

2000 年 3 月 16 日

「オニであり、ホモの人の物語です。からまつ林の人です。ロシアのスターリンです。3 大、悪人の一人のスターリンも、オシラムに入られた人でした」（詳しくどのようなことをしたか教えてくれるが省略す）

2000 年 4 月 19 日 0 時 45 分

突然目が覚める

「北の者です。3 大悪人の一人、スターリンです。（以前降りましたが……）白樺のたくさんあるロシアの者です。星の者が降りて告げるように言ってきたので降りてきました。

意志が鉄の人でした。嫌われ者の物語です。今霊界でとても責められています。荒れ者スターリンがお知らせしています。オニが私を支配したのです。私に悪者の大将が入っ

たのです。なぜかというと、おそらく本当ではないと思われるでしょうが、張作霖（？）が私の中に入ってきたのです。殺された張作霖（？）が私にオニの復讐をさせたのです。それに成功すると本物のオニが入ってきたのです。そして多くのロシア人を苦しめたのです。

これで人間の極限の苦しみをさせることができたと、ヒトラーのオニとともにとても楽しんだのです。その思いがまだ残っている所もあります」

2000年2月12日

前歯がひどくうずき、問うとヒトラーからであった

「私は電気技師（？）であったが、電気を触っているとき感電して一時気を失ったことがあり、その時オシラムに入られました。入られなかったら普通の人だったのに。声が聞こえるようになったのです。「おまえはアレキサンダーの生まれ変わりなので、同じように大きな国を支配することができる」と聞こえてきたのです。

それまで新聞も読まなかったのに読むようになり、強い指導者が必要だと思い始めた。オシラムの王が入ったためで、演説もとてもすらすら言えるようになった。これらの言葉を聞いてユダヤ人も恨みがなくなり天国へ行けたと」

2000年2月14日

「OS（オーム　トリア）ここから民族が別れて行きました。最初は一つの「わ」で一つの言葉でしたが、とてつもない時間がいろいろな言葉になりました。

ジプシーはOSにいた（？）人たちで、戦いの嫌いな人たちでした。そのことだけで悪い支配者にOSから追い出されたのです。このことは本当のことです。私(ジプシー)はオシラムの支配されるところで生まれました。そしてイシの者と呼ばれていました。あらかたの人がオシラムに入られていました。

この頃きわめて大人しい人がいました。いつも人にいじめられていたのに何の抵抗もしないため、国を渡り歩き暮らすようになったのです。ただ大人しいというだけで疎外された人が、仲間外れにされ追い出されたのです。これがジプシーの始まりです。インドの北から来たのでなく、今のOSのあたりの人でした。知らぬ間にあちこちに広まっていきました。

悲しいことに、いまだに差別を受けているのですね。OSにいた人にオニが入ったのです。その人が今のジプシーを追い出したのです。ただ大人しく支配者が気に入らないというだけで追い出したのです。追い出された人は仕方なくさまよい歩いたのです。これがジプシーの始まりです。

そうです。OS にいた人でイシを大切にする民族でした。そしてこれがジプシーの生まれた本当の意味なのです。

星の者が語りました。もの悲しい音楽には故郷を追われた悲しみが込められています。このあたりのジプシーも元はとても大人しい民族でした。迫害され続けて胸を痛めているのです。（著者：歯が痛い）わかりましたか？　壊れた心の物語でした。オニの者は今ヒトラーを崇拝する者たちです」

「オーム（最後）トリア（また戻らなければならない）＝死んでもまた人間として生まれ変わらなければならないという意味。

霊がわからないのです。思いませんか？　世の中が悪いということを平気ですることを。お隣もトンカラクリです（？）。頭がものすごく固い国です。なぜならヒトラーのお金でも全部お利子を付けてお守りしていたからです。そしてヒトラーに莫大なお利子を払ってあげていたからです。学びの星の者が教えてくれました」

2000年2月17日5時30分

「縄ばしご、縄ばしご……」と言って目が覚める

「ドン・カルロス1世です。なぜ私がお城（アルハンブラ宮殿？）を取り戻せたか書いてください。

ある勇敢な男があのお城に忍び込めた訳は、お城の中にある女性がいたからなのです。その女性はキリスト教徒でした。それでとてもイスラムの王様が嫌いだったのです。王妃の一人でした。その女性がドン・カルロスのお姉さんたったのです。お姉さんが縄ばしこを降ろし彼は無事お城に忍び込み、仲間をお城に誘い込んだのです。(イスラム教徒は華々しい宴を催していました）寝込みを襲ったのです。そしてイスラムからアルハンブラを取り戻したのです」

2000年2月18日0時

目が覚める

「娘を魔女と呼ばれた母親です。娘はいわゆる声が聞こえるというだけで、魔女としてマヨール広場で火あぶりにされました。11歳の乙女でした。とても親思いの子でした。ただ声が聞こえるというだけで、マヨール広場で火あぶりにされました。私はそれを見て気が狂いました。そして私も火あぶりにされました。やはり魔女の母親だと。

火あぶりにされたときオニが見えました。女の人のオニ

でした。その悲しみを止めることができません。娘もとても優しい子でした。本に書いてほしいのです。火あぶりにされた母親の気持ちを」

（著者：オニに入られたためで学びだったのです。許してあげてください）

（しばらくして）「わかりました。娘と一緒に星になれました。悲しみを忘れることができ、優しい星の仲間が迎えに来てくれました。私たち親子は優しい星に行けました」

2000 年 4 月 18 日 23 時

突然ひどい咳が出る

「イタリアのボッテイチェリーが降りてきました。私はこのように咳が出て、とても苦しみました。私がなぜあの 3 人の美女の横にあの嫌な人物を描いたかというと、Mが言ってきたからなのです。あなたが切り取ったあの人物を描くように腕が動いていったのです。私が止めようと思っても止められませんでした。このことを伝えたく降りてきました。

とても咳がひどくなり、血を吐いて死にました。3 人の美女が生き甲斐でしたのに、あのような恐ろしい絵を描かされ、とても気にしながら死にました。嫌なことを描かせられたと告げるために降りたことで、あなたを苦しませて

すみません。どうしてもお伝えしたかったのです。自分の本心で描いたのではないことを伝えることができ、うれしく思います。ウッフィに来てください。

ボッテイチェリーより」

「これは本当のことではありません。私は星の者です。昨日言っていたことと違います。

あの３人の美女を描いた後、ボッテイチェリーは女の人に振られたので、あの嫌な男を描いたのです。Mが乗り移って描いたのではありません。あの絵（最後の審判）の片隅に描いた絵は、『Mに支配されて地獄の絵を描かされた』と言っていたことを聞いたからなのです。それでボッテイチェリーも支配されて描いたように言ったのです」

2000年4月14日

ショパンを聴いていると口が動く

「ショパンでなくショピアンと呼んでください。私のピアノの曲を聴くことができ、懐かしくうれしくて今の思いを言葉に現すことができないくらいです。いろいろな思いがあり何を一番お知らせしたいかというと、マズルカの物語です。

ポーランドのマズルカがこの前生まれ変わったとき、とてもきれいに聞こえていました。なぜなら私はロシアに生まれ変わったのです。ロシアの国民としてなぜマズルカが好きかと思っていました。そして、ロシアの友達がなぜそんなにマズルカが好きなのかと聞かれたが、わからなかったのです。

今しばらく休ませてください。お話したいことがたくさんあるのに、言葉が見つからないのです。

『別れの曲』は題名はなかったのですが、たまたま知り合いの人が『別れの曲』と名付けたのです。本当は私が密かに好意を持っていた人に差し上げようと作った曲です。ジョルジュ・サンドではありません。そそとした美しい人でした。お金持ちのお嬢さんでした」

2000年4月15日朝

ショパンから続いて

「ロシアに生まれていたときは人間として嫌だったので、早く終わりました。死にたいと思い続け、同じ病気で死にました。なぜロシアに生まれたかというと、仕方がなかったのです。Mの命令でしたが、日本に生まれたいと思っていたので嫌がらせをされたと思います。（著者：なぜ日本に？）霊界に来てから日本を知りまた。急いで星になりたかったのです。この言葉が一番言いたかったのです。

ショピアンより」

2000年4月15日昼

ポーランドの俳優だったズビグニエフ・チブルスキーが降りています。特別な計らいです。

「チブと呼んでください。私のことを思ってくれて光栄です。あなたの魂が、やさしくポーランドをいつも思ってくれていることを感謝します。「灰とダイアモンド」の映画はとてもよく私も覚えています。あなたが何回も見てくださったことは、ここに来て知りました。それが心の支えでした。悲惨な戦争がなくなることをお祈りしています。

私は列車事故で亡くなりましたが、これも私の役目が終わったからでした。今はただポーランドが平和になりうれしいです。肉体が灰になっても、ダイヤモンドのような霊は残ります。私は星にはまだなれないので、日本に生まれ変わりたいと思っています。星の学びを皆さんがわかってくれることをお祈りします。この言葉を知らせたかったのです。おしまい。

チブより」

1999 年 4 月 24 日

左指が痛い、問うと

「イカロス、イカロスの霊です。わかりますか？イカロスは本当にいたのです。ギリシャにいました。なぜ太陽に向かおうとしたかというと、太陽から地球に来たことを知っていたからです。イカロスは仲間に会いに行こうと思ったのです。仲間は太陽人です。太陽は霊的に何も熱くないことを知らされていたからです。何度も夢の中で太陽に遊びに行っていたからです。太陽にはものすごいお城があり、太陽人もたくさんいたのです。そこにいましたのが名前のない白色星団の人でした。

私がイカロスのとき、お父さんはいつも『おまえは男の子だから俺のように強くなければいけない』と言われ続け、

とても嫌でした。父親は大嫌いでした。地球を助けるために人間として生まれてきたのに何もできなかったので、せめて空の飛び方を人間に教えたいと思ったのです。それで一生懸命、空を飛べるように神様にお願いしていたのです。

そしたらMが『おまえの願いを聞いてやるから、大きな鳥の羽を集めてこい』と言ってきたので、私は一生懸命ワシの羽根を集めました。そして羽根をロウで固めるように言われたので、その通りにしました。そしたら飛べたのです。そして死んで私の霊はMに行ったのです。そこであの問題となったUFOを見ました。その形は葉巻型で、とてもたくさんのMが乗っていました。私は霊ですが、現実のMは肉体が見えたり見えなかったりしていました。Mはその当時3次元から4次元にいました。

私は1998年2月に突然地球に戻ってきたのです（霊的に）。周りにいたMの霊は、一人残らず消えていました。私はなにも嘘をついている訳ではありません。白色星団の一員としてお役に立つことがうれしいのです。私は地球を助けに来たのだと、今このことをお知らせします。

イカロスの霊より」

1999 年 4 月 23 日

あー、あーと口が動く

「アナスタシアです。ターニャとも呼ばれていました。私は眠っていたのに無理矢理白色星団から蘇らせられ、伝えるよう言われたので降りてきました。私はロシア皇帝が殺されるとき、一人秘密の部屋にいたのです。何をしていたかあまり覚えていませんが……。

大きな声がしてとても騒がしくなり、おかしいと思いベットに隠れていました。静かになってから、そっと秘密の抜け道を通り私の親戚の家に行きました。叔父がいました。叔父がこれから逃げようと言い、馬車で夜道を走りました。

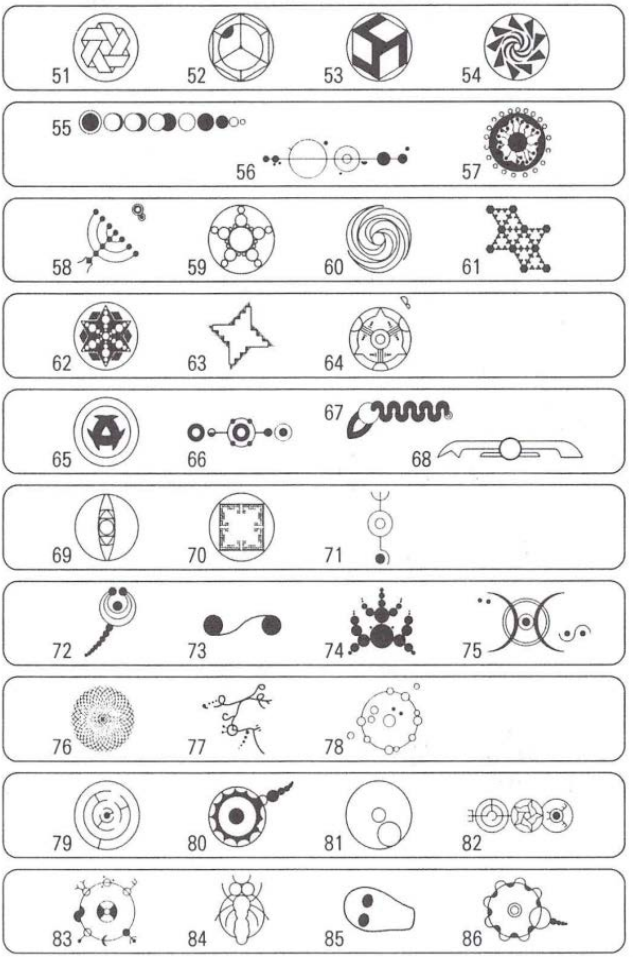
それからあまり思い出せないのですが、叔父が亡くなってから私は自分がアナスタシアであることを世間に告げました。私の言葉を始めは誰も信じませんでしたが、私が宮殿の見取り図を描き、持っていた宝石を見せました。なぜそのようにしたかというと、叔父がいなくなり淋しくなったからです。

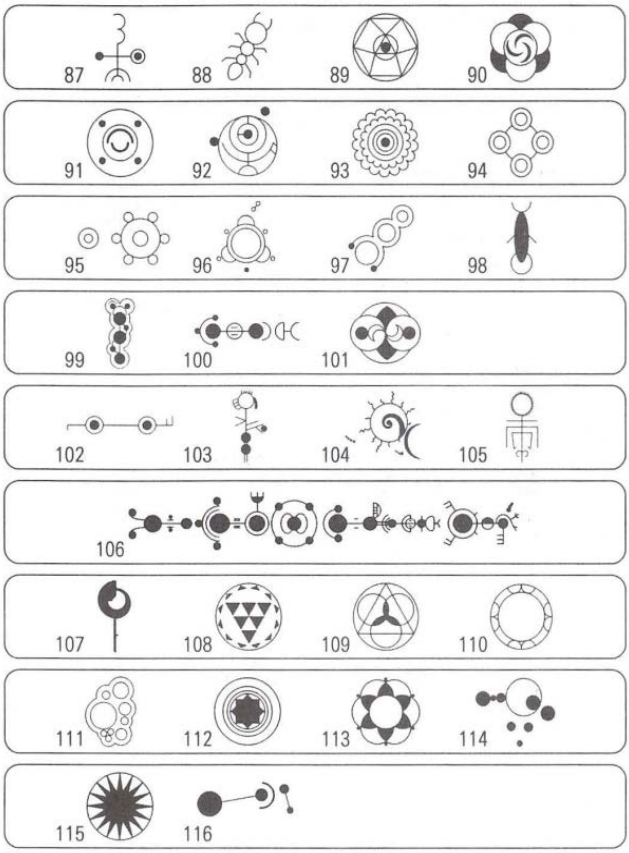
それからのことは映画の通りです。私の言うことをよく聞いてくれたのです。今でもなぜ罪のない私の家族が殺されたかわかりません。映画の後いろんな人が私の所に来ましたが、お金を借りる人が多かったです。そのうちの一人

と一緒になりましたが、とても乱暴者でした。

　ユダヤ人でしたが、霊界に来たらユダヤ人は立派だと言われています」

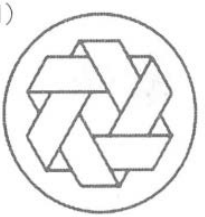
5) ミステリーサークル一覧





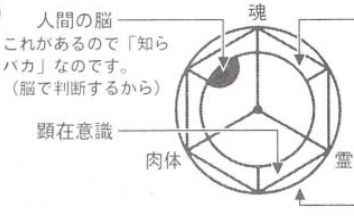
注）1 ～ 50 までのミステリーサークルは、ホームページに記載されています。

51)

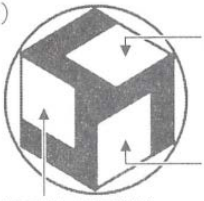


これは星の者が折り紙をしたのではありません。星の魂から離れることができないということです。『人間は星から魂が降りているので、星からのお知らせを聞いてください』という意味です。

52)



53)



54)



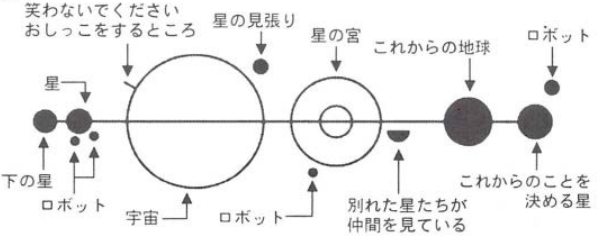
星子ちゃんと書いてある。
はにかみの星の図です。
これは、まだできあがっていない
乙女の星の図です。

55）



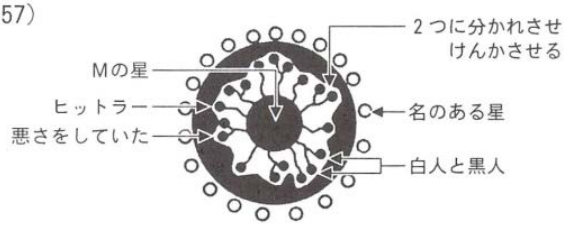
上の図は、太陽と月が重なることを図にしたのです。
このように配置したのには、訳があるのです。
星たちが今より大きくなるには、このように並べると大きくなりやすいのです。星が仲間の星を見ることができるからです。そして相手より大きくなるのです（?）。

56）



宇宙も白いイシのエネルギーを出すのです。
これからの宇宙や地球をどうするか星たちが決めて、星の宮に報告する。

57）



これまでお知らせしてきたことです。

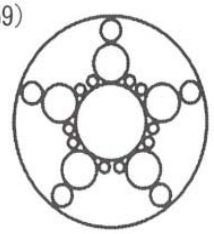
58)



星が見張っている
星の悪口になりますが
名乗れない悪い星

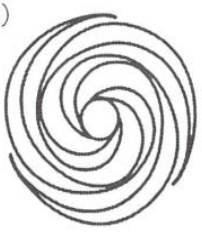
なかよしこよしの物語です。
そうです。太陽系の惑星たちです。

59)



これはわかりますね。
大きなお腹のイシカミです。
ボールに入って地球に来ました。

60)



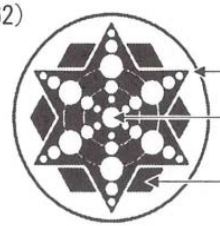
ミヨにはわかるでしょう。
エネルギーの玉です。思い出します。この玉を射手座の者に投げ与えたのです。それでもイシカミは助かりませんでした。お祈りをすると投げてあげますが、わからないでしょう。

61)



オニがいなくなり、太陽系の星がそれぞれおそろいで整列しました。ルシファーもいます。
小さな星はこれから大人になる星で、ロボットの役をしています。

62)



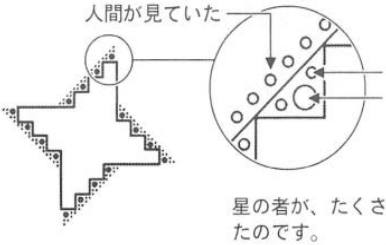
オシラムはオニの霊で構成されているという意味。

星の宮

星たちはオニの後ろにいたということ。

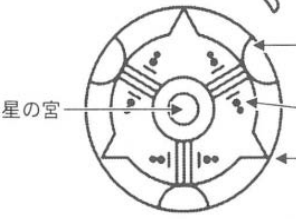
オニに支配されていたということを示す。

63)



星の者が、たくさんのピラミッドを作ったのです。

64)



壊れたオゾンをしまっています

地球を応援している星たちが
不思議なことを探している人を
捕まえる

お座りをして、その人を調べる

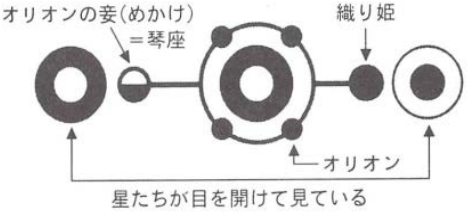
いなくなったオニ
オニから星の宮には行けない

65）

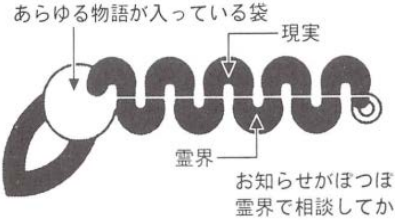


Pの部下だった月人を描いたものです。
三日月が3つ組んでいるのは、とても月人が強いということを現しています。月人が地球を支配していたことを現しています。
今は、月ヨミのミコトが平和に治めています。

66）お知らせが嫌なのです。（なかなか説明してくれない）

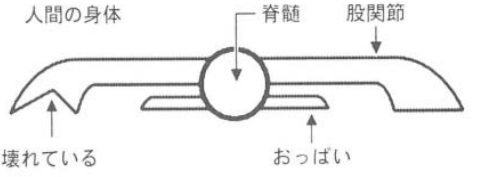


67）

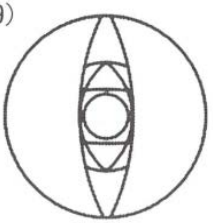


お知らせがぼつぼつ来るのは、
霊界で相談してから来るからです。

68）

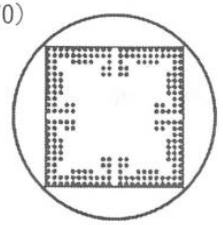


69）



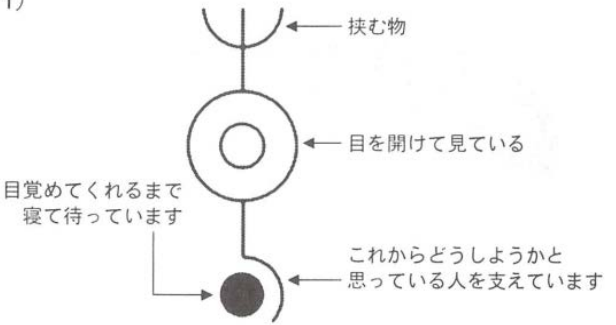
星の宮を取り合って、引っ張っているのです。

70）

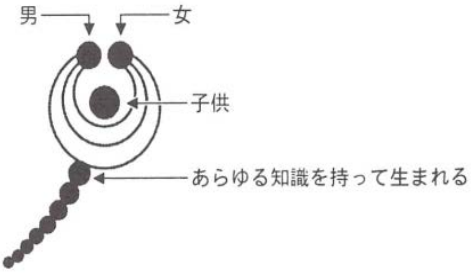


オニの仲間の星の図です。
このように地球の奥深くに入っていました。

71）



72)

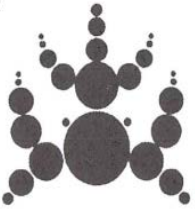


73)



男と女でバランスを取っている。

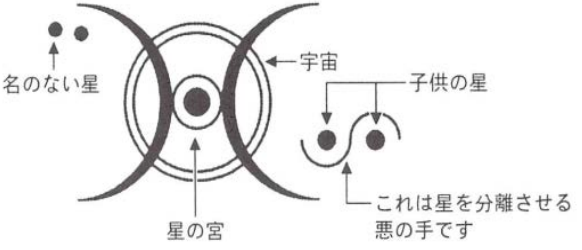
74)



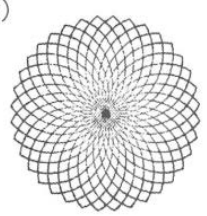
これは悪の物語の言葉の集まりですので、お知らせしない方が身体にいいでしょう。
これまでの呪われたお話の集まりです。

75)

伝えるのが嫌なのですが、刀を突き付けられた星の宮。

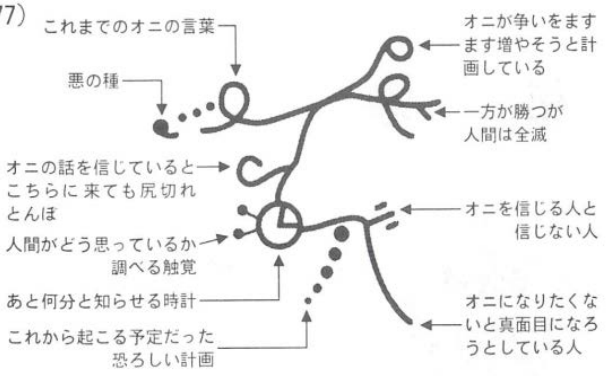


76)

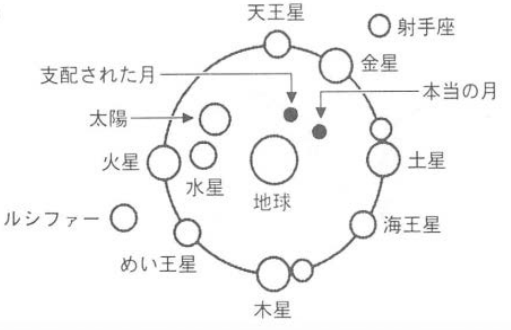


宇宙がこのようになっている。
（少しずつ重なりあって、
ちがう次元がある）

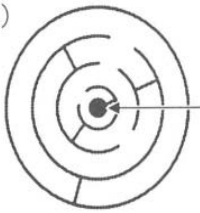
77)



78)



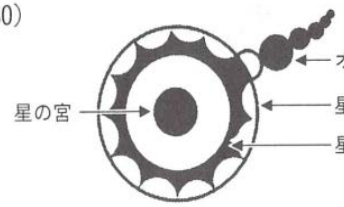
79)



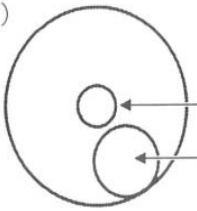
わかりましたか？　そう、迷路です。

真ん中の星の宮にたどり着くのは難しいでしょう

80)



81)

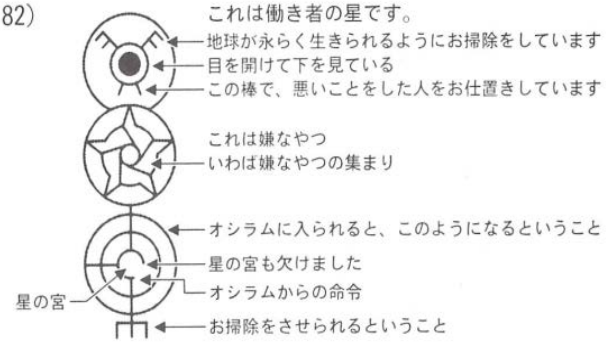


星の中には言葉があるという意味。

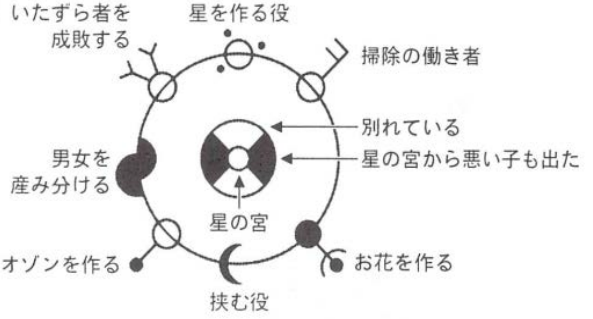
星から星への連絡の言葉

星から人間に送る言葉

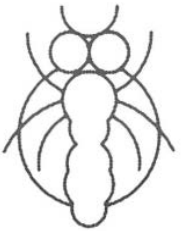
82)



83）

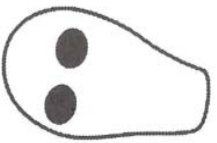


84）



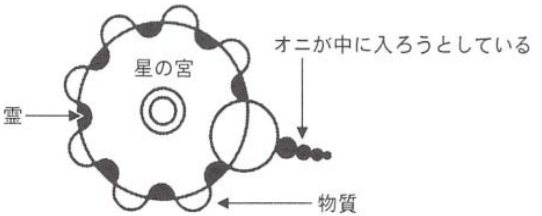
ミツバチのように、たくさんの
プレゼントを宇宙から運んでい
ます。

85）

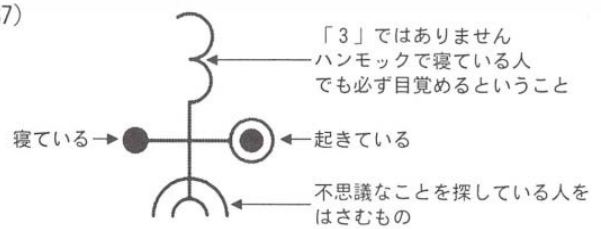


これはわかるでしょう。
そう、Mのロボット。

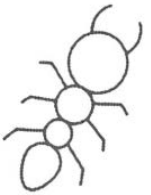
86）



87)

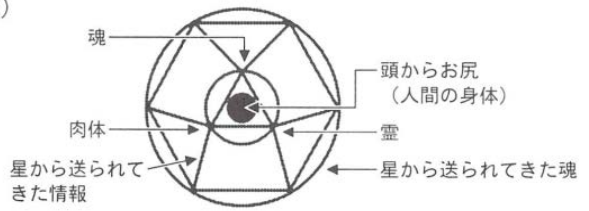


88)

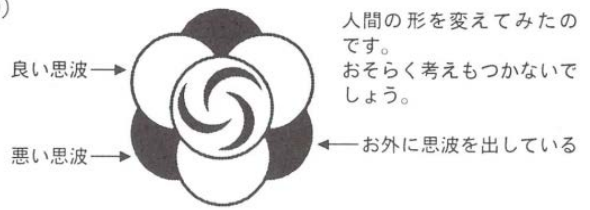


アリも私たちが作ったということを
知らせました。

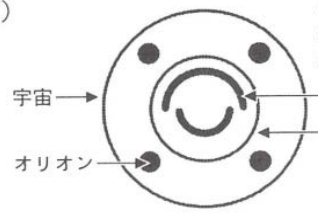
89)



90)

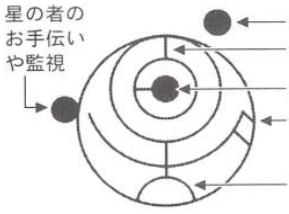


91）

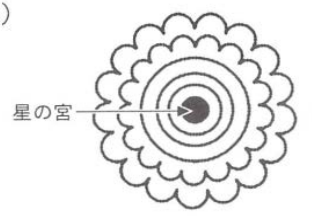


これが女と男です。
男と女の関係は、オリオンから来ています。

92）

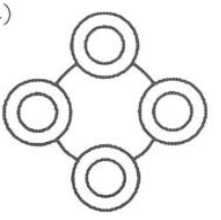


93）



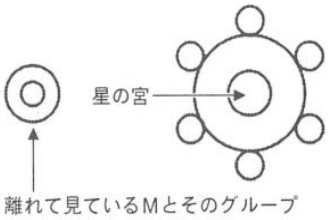
そうです。お花です。
本当はきれいなお花に囲まれたような星の宮。

94）



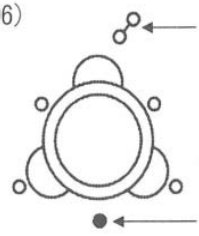
これはオリオンのおめかしです。
本当は4つだったということを知ってほしいのです。

95)



私たちです。
6つだけなのはなぜかというと、ミステリーサークル担当者だからです。

96)

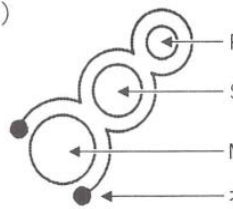


これは我々が見張っているのです

イシカミではありません。
オシラムを下から見た図です。
ここに悪いことを伝える言葉があるのです。
子分がたくさんいるということです。

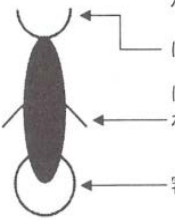
オシラムになりたいと近寄っている星の子供

97)



Mのグループの3大悪人

98)



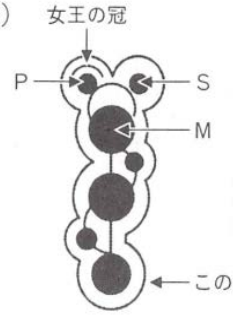
ハサミムシではありません。

はさむもの

はさんでからしばらく様子を見て
ホンマ者でない者は、ここから出します

審査に通った人だけ、ここに来れます

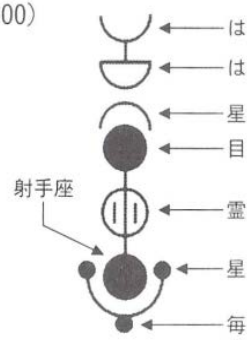
99）



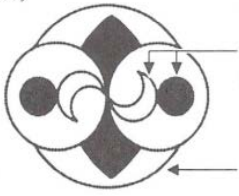
これはMのグループです。そして名前を知られたくないのがいるのです。後悔しているので伝えにくいのです。このように可愛い姿に描いたのは、オニの仲間も星の宮の子供だからです。お知らせはこれまでにしてください。今は後悔して星物語を手伝ってくれてます。

この宇宙がこのようになっているということ

100）



101）

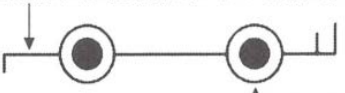


わかりませんか？　人の顔です。

M（黒い丸）と月人（三日月）です
盗人の顔です

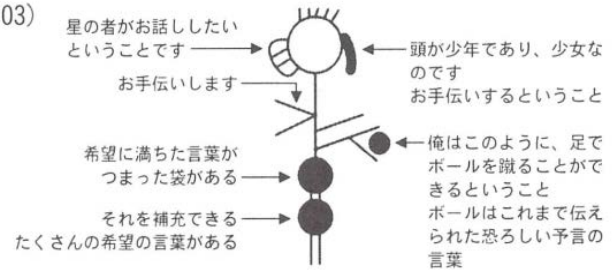
宇宙の中に暗黒を作ったのです

102) あまりに地球が汚れているので壊れました

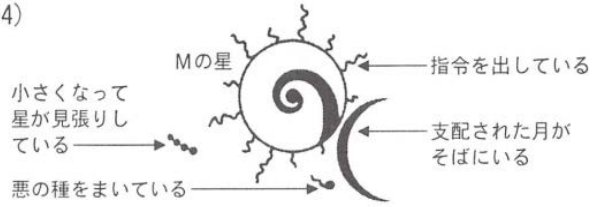


目を開けてお掃除しています

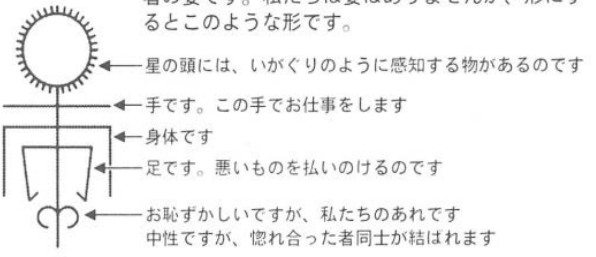
103)



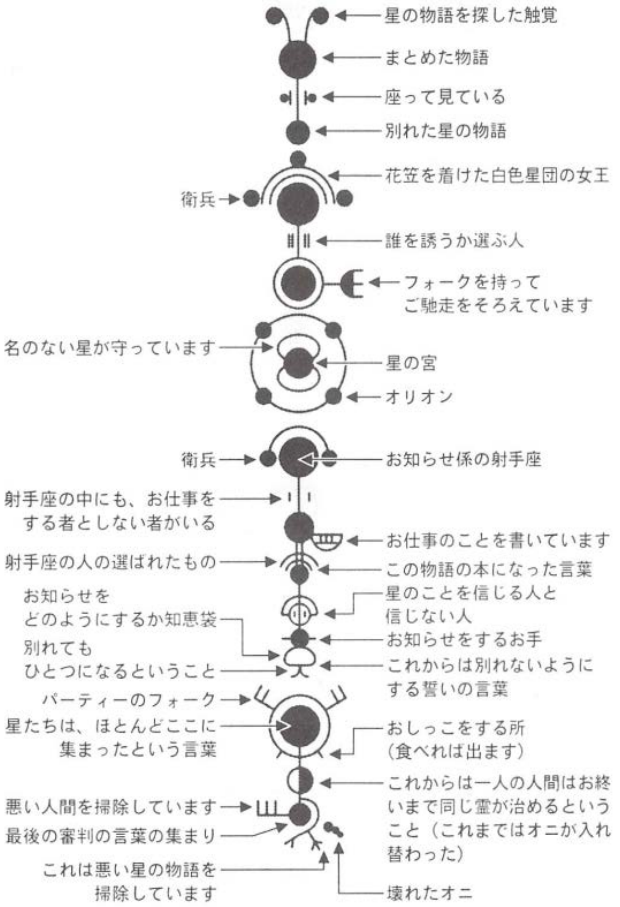
104)



105) 人間ではありません。これが私たちの姿で、星の者の姿です。私たちは姿はありませんが、形にするとこのような形です。



106)　オニがいなくなり、白色星団がお祝いのパーティーをしています。これは星物語をまとめあげたものです。



この長い図は、霊界にオニがいなくなったお祝いのパーティーです。

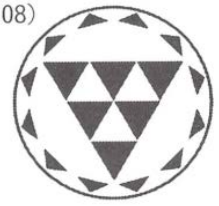
2000年のミステリーサークル

107）



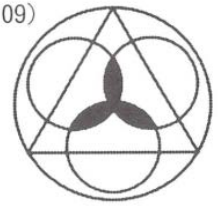
オニがオニを食べているので、害はありません。

108）



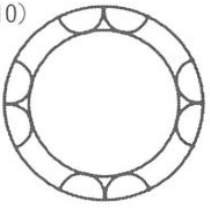
三角の小さいのはオニの子供。
星の宮が包んでいますので、心配ありません。

109）



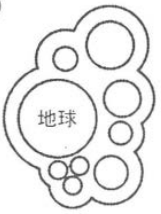
一人の人間。
中の黒いのが本当の人間です。

110）



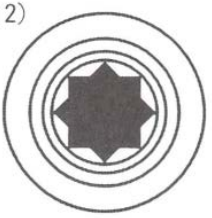
言わないといけませんか？（なかなか言わない）
恥ずかしいのです。
おっぱいで星の宮を支えているの。

111)



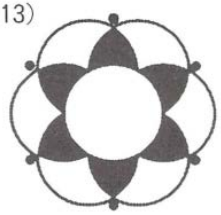
太陽の惑星を小熊ちゃんの足跡のように描きました。

112)



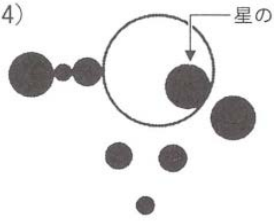
これ以上描くと消滅すると言われました。それで今のことよりこれから先のことを描きました。
星の物語ではありません。何者も破れない4重の膜で、オニの集まりが出られないようにします。このことでお知らせを減らすことができます。

113)



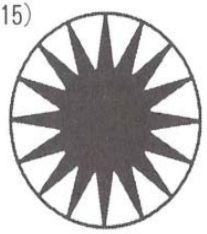
6つの星がお絵描き担当です。

114)



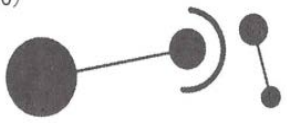
それぞれの惑星はお母さん（星の宮）から離れたり、そばについていたりしています。なぜこの絵を描くかというと、かわいそうだからです。?
太陽が描いていないのは、星だと思われていないからです。

115)



お絵描きしたいモノが16になったのです。

116)



射手座（イシカミ）と地球が手をつないで、星たちが見守っています。

2000年1月31日

逆さの5線譜のビジョンが見えた後、9時から9時5分の間にメロディーと共に知らされる。「私のお絵かき」はミステリーサークルのことです。

「星からのメッセージ」

1) 星はさみしく　思ってる
あなた一人じゃ　ないのです
お空にいるよと　呼んでます
星のまたたき　意味あるの
あなた好きよと　またたくの

2) 星は何でも　知っている
私のお絵かき　いかがです
私の願いを　描きました
星のまたたき　昼もある
お空を見上げて　ごらんなさい

3) 星の数ほど　ありました
それらはみんな　学びです
いつか必ず　この地球
笑顔に満ちた　星になる
私遠くで　見ています

1999 年 8 月 22 日に知らされたことです。

「ヒミコです。「ワ」と言う事はとても大切だと思いました。輪になって踊ったりして、お互い助け合いヤマタイコクを作りました。カタカナのワが最初の言葉でした。

ア＝アナタのア、頭と身体。

イ＝イノリのイ、ノとリをあわせた。

ウ＝ワの上の点で、先頭に立ってウタウ。

エ＝橋＝エニ＝川と川を結ぶ＝＝連絡する。

オ＝男のこと（ついているものがある）。

カ＝動物の皮、力をあわせて力を入れてはぐ。

キ＝木の板に文字を書いて綴じた物。

ケ＝毛のケ、頭の上に丸を載せていた。

コ＝子供が産まれるところ。

サ＝めざしを刺す。男と女がサス。

シ＝シヌのシ。点が魂と霊を現し、長いのが肉体。
それらが離れるとシヌ。

ス＝スキのス。若者が考えました。

セ＝イソのセイ
のセ。砂浜に穴を開けている貝。

ソ＝ソのものということ。指さしてソレという事。

タ＝タンボの夕、夕カイの夕。稲を干す高い所に
登った形。

チ＝血は命の元。＋は死。ノに散ると死。

ツ＝ツミのツ。肉体から魂と霊が離れると悪い事をする。

テ＝身体の上に２本あるものが手。

ト＝トモと言う意味。自分をちょっと支えてくれる。

ナ＝ナニの意味。ナ＝＋＝死＝とはどういうものか、
　　意味が解らなかった。

ニ＝２本。（追加、肉体と霊だけでは死ぬと言う事。
　　死とはナニ）

ヌ＝スと共に若者が考えました。

ネ＝猫もネズミもいました。木の根の形。

ノ＝野原のノ、本当は横だが。

ハ＝歯

ヒ＝かまどから火が出ている。

フ＝フーと口から出る。

ヘ＝なだらかな土地。

ホ＝死んだ後、善人は左、悪人は右と別れる。

マ＝鉛が身体に入り、苦しむこと。

ミ＝３つ。（魂、霊、肉体）

ム＝無理をして身体が曲がる事。

メ＝芽が出た様子。

モ＝モノをもらうとき手を出す形。

ヤ＝矢

ユ＝舞台の上でユーガに踊っている形。

ヨ＝沢山食べ物が取れて、棚に並べている。

　良かったのヨ。

ラ＝楽をすると後でフーとため息が出る。

リ＝リコウのリで２通りの事を考える事が出来る。

ル＝礼をしている人の前に立っている人が､瑠璃（ルリ）

　を身につけている。

レ＝頭を下げて礼をしている。折れ曲がるのと違うので

　反対にした。

ロ＝家の中の炉。

ワ＝輪になって踊る。

ン＝点が一つなくなっている。魂が天界に行くと死んで

　も、生まれ変わらなくても良い。

　若者と一緒に考えました。

ワシ＝輪、和が死ぬと独裁者。

「この物語を読んでくださつた読者の皆様へ。

私ムハメットが最後の言葉を述べさせてもらいます。このように我々の平和を願うメッセージを本にしてくださってありがとうございました。

これも皆様の暖かいご支援の賜物と思います。これからも星たちや、我々人間であった霊たちが応援しますので、どうかこのすばらしい地球を平和にしてくださいますようにお願いします。

霊たちの代表ムハメット、

そしてイシカミを始めとする星たちより」

「私は星の宮です。私の物語を読んでくださったことのお礼を言います。皆様の霊とお話をして、仲良くこれからの生き方を決めていきたいと思います。それではお終いまで読んでくださってありがとうございました。

変わらぬ愛を送る星の宮より」

最後にこの情報の中に真理が隠されているのでないかと、暖かく見守ってくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

特にインターネットで応援してくださっているためお名前が書き出せれませんが、皆様のメールやお電話でどれ

ほど励まされたか言葉に表せないほどです。

今のところまだ次々と新しい情報を知らせてくれています。いずれ第３集もと思っています。

それでは最後までお読みくださいましてありがとうございました。

シロキカヨコ（スニキミヨ）

著者略歴

シロキカヨコ（スニキミヨ）

元・看護婦

元・米国催眠協会公認ヒプノセラピスト

京都府綾部市星原町生まれ

参考文献

『星からのメッセージ』ソラと星出版

星からのメッセージ第二集

2001 年 1 月 1 日初版第一刷発行

2003 年 3 月 1 日第二版

著　者　シロキカヨコ（スニキ　ミヨ）

発行者　白木妙子

発行所　合資会社ソラと星出版

印刷・製本

◎ Shiroki Kayoko 2003Printed in Japan